ブータブルなのに書き込み可能! 特許出願中のプレミアムLinux付!!
遊んで学べる
Windowsユーザーのためのリナックス情報誌!
リナックス100%
Linux100%
Vol.2
100%ムックシリーズ
定価1,380円
Premium LinuxOS
myPdisc Custom Edition
誌面完全連動
Linux6種入り
特別付録DVD
本誌オリジナル
myPdisc
Ubuntu版ほか
緊急収録!!
ネットで話題沸騰
gOS
超完全
保存版
コピー、エミュ、MP3、Google
動画、高速化、セカンドライフ
Windowsに出来てLinuxに
出来ないことはない!
Linux版
このフリーソフトが
スゴイ!
インストール
から
使い方まで
コレで完璧!
大好評!
リナックスラボ
初心者でもできる自宅サーバ
WiiリモコンでLinuxを動かす
世界最軽量のLinuxを持ち歩く
USBメモリブートが超簡単に!
Vista・Macを超えた最先端3Dデスクトップ
CompizFusion
究極マスター
コマンド×ディストリが分かる!
超Linux入門
Linuxだってカッコよく使いたい
Stylish Desktop Linux Edition
巻末付録 7.04からの移行もOK!
最新Ubuntu Ver.7.10インストールガイド
Windowsからの乗り換えユーザー必見!
Ubuntu超基本テクニック
&セッティング27
最強×無料
本誌オリジナル
Ubuntu
Knoppix
SLAX版myPdisc
を収録!
ブータブルなのに書き込み可能 世界が注目する特許出願中の新技術
「myPdisc」がアツい!

CONTENTS

第1特集 このフリーソフトがスゴイ! Linux版

インストール直後から使える!!

第2特集 Ubuntu超基本テクニック&セッティング27

自鯖からUSBメモリまでLinuxのウラの裏

第3特集 Linuxラボ

はじめにお読みください

■付録DVD-ROMについて

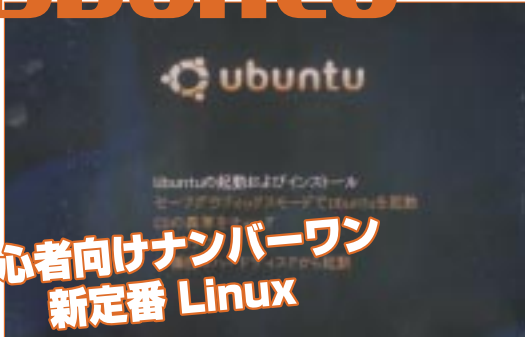
付録DVD-ROMは「Ubuntu7.10」の起動ディスクとなっております。UbuntuはDVDから起動できるLinuxソフトウエアです。パソコンのDVDドライブに本DVD-ROMをセットし、電源を入れることで起動することが可能です。詳しい使用方法は110ページからのUbuntuインストール完全ガイドをご覧下さい。

また、付録DVD-ROMには、3種の「myPdisc」および「gOS」「Puppy Linux」が含まれています。これらの詳しい使い方については、それぞれ14、12、88ページからの各コーナーをご参照ください。

※ROM内の各OSは弊社にて十分な起動・動作確認を行っておりますが、お客様のPC環境での確実な起動・動作を保障するものではありません。
※各OSの使用で被ったいかなる損害につきましても弊社では一切責任を負うことができませんので予めご了承下さい。
※各OSに関するお問い合わせは一切受け付けておりません。

■「myPdisc」Linux100%誌版の使用許諾契約について

付録DVD-ROMに収録されております「myPdisc」はインテリジェントディスク株式会社が定める使用許諾契約に基づき、**本誌「Linux 100%」vol.2を御購入の読者のみ使用することが可能**となっております。詳しい使用許諾契約につきましては、付録DVD-ROMに収録されております「Linux100%誌版の使用許諾契約について.pdf」をご覧ください。

■株式会社晋遊舎
http://www.shinyusha.co.jp/
■インテリジェントディスク株式会社
http://www.intelligentdisc.com/index_alternate.html
■Ubuntu Japanese Team
http://www.ubuntulinux.jp/
■gOS
http://www.thinkgos.com/
■Puppy Linux Japanese Team
http://openlab.jp/puppylinux/

Linuxを使いこなせ

一概にLinuxと言ってもさまざまな違いがある
本誌をより楽しむために、ここでその違いを理解しておこう

Ubuntu

Page74

扱いやすい本体サイズや、機能の充実など巷で一番人気のLinuxディストリビューションといえばこのUbuntu。3Dデスクトップなど Windowsを遥かに超える機能を体験しよう!!

初心者向けナンバーワン
新定番 Linux

本誌標準LinuxはUbuntuを採用

Linux100% vol.2におけるメインOSはこのUbuntu。しかもそのバージョンは10月にリリースされた7.10Gusty Gibbonだ。本誌をくまなく読めば、WindowsやMacOSにも劣らない、この最新無料OSの実力を思う存分に使いこなすことが可能になるはず!!

myPdisc

Page14

世界が注目する技術であるmyPdiscもROMに収録。なんとDVDメディア1枚で自分専用のOSを持ち運んで使うことを可能なのだ!! この最先端技術を君の手の中に!!

gOS

Page12

人気のUbuntuをベースに、Googleなど各種のWebアプリの使用を前提にカスタマイズされたのがこのgOSだ。この最先端OSに触れずしてLinuxは語れない!!

Puppy Linux

Page96

さまざまなタイプがあるのもLinuxの魅力。このPuppy Linuxは非常に軽量ながら必要な機能は完備している。まさにUSBメモリで使うためのLinuxなのだ!!

Case1

DVDから直接起動!!

付録DVDはUbuntu7.10の起動ディスクになっている。ということは、ディスクをドライブにセットすれば最新バージョンのUbuntuが即座に起動/使用可能ということなのだ!

Premium Linux OSの使い方は2通り

本誌付録DVDの使い方にはブート/データと2通りの使い方がある。簡単にLinuxを使ってみたいなら、今すぐDVDをドライブにセットして再起動。より深くLinuxの世界に浸りたいのなら、ROM内に収録された各種のLinuxを本誌のページをめくりながら使っていこう。

Case2

収録ファイルからディスクを作成

使い方のもうひとつは、ディスク内に収録されている各種のLinuxディストリビューションの最新のブータブルOS「myPdisc」の本誌特別体験版から、USBメモリでの使用にぴったりな世界最軽量Linuxまで、その楽しみ方は千差万別なのだ!!

Premium Linux OS
myPdisc Custom Edition
Powered by IntelligentDisc,Inc. & Ubuntu Japanese Team
Linux100% ©2007 SHINYUSHA

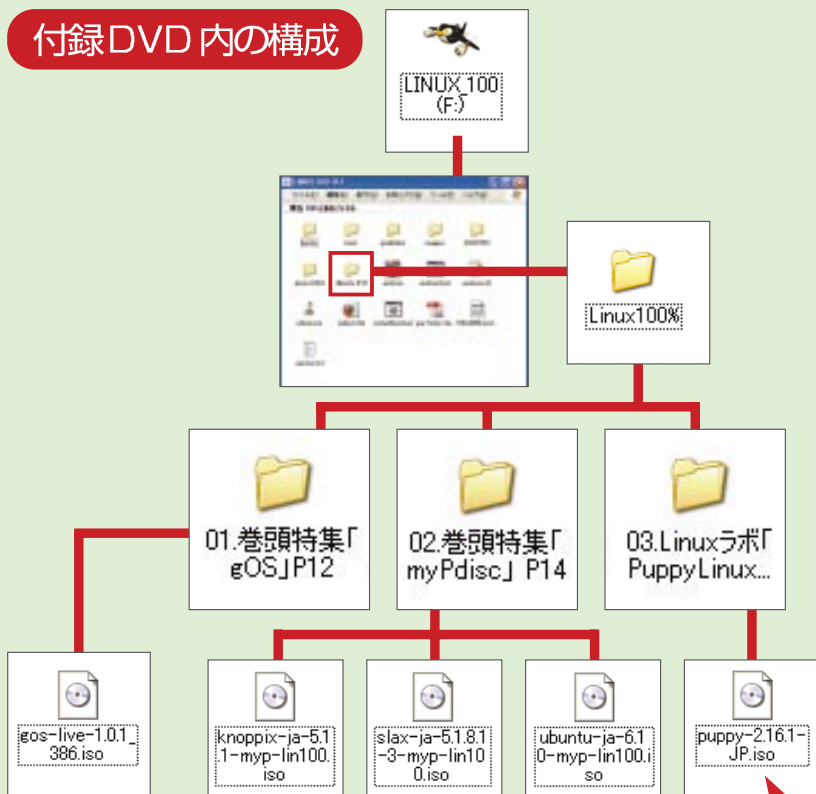
Linux100%絶対オススメ

6種類ディストリビューション入り Premiun LinuxOS

まずここから!

本誌を楽しむための付録DVDの使い方

本誌Linux100%の各特集およびコーナーは付録「Premium Linux OS」と連動しています。そのため、本誌を最大限に楽しんでいただくためには、まずここで付録DVDの構造および収録されているデータについて知っていただくことが重要です。ROM内に収録されているデータの所在は右の図のようになっており、表示などについてはWindowsXP上でのものです。中身を御確認いただく為に、まずはWindowsを起動してお手持ちのDVD-ROMをセットしてください。

付録DVD内の構成

Let's go to Linux World!!

Linux USER Only!

「Beryl」を超えた究極の最新3Dデスクトップ

CompizFusion スタートアップガイド for Ubuntu

ついにUbuntuに標準搭載された3Dデスクトップ「Compiz Fusion」。機能の追加や設定ツールなどが整備されてよりクールにより使いやすくなった。これはもういますぐに使うしかない。

CompizFusion Startup INTRODUCTION

大人気の3Dデスクトップで一番注目を集めているのが「CompizFusion」なのだ！

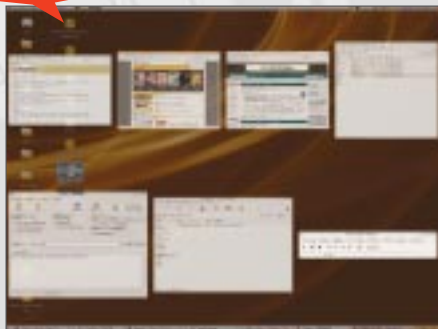
巷では、VistaやMacを凌ぐともいわれている3Dデスクトップ「Compiz Fusion」。Ubuntuの最新バージョン7.10では、この「Compiz Fusion」が標準搭載されることになったのだ。実際に動かすには、グラフィックドライバが別途必要な場合もあるが、それでも従来に比べて非常に簡単に3Dデスクトップを楽しめるようになった。

今回はこの3Dデスクトップを実際に動かすための設定方法や基本的な使い方などについて詳しく紹介していくので、今まで体験できなかった人もこの機会にぜひとも3Dデスクトップを満喫しよう!

おなじみのキューブエフェクトやウィンドウを展開して一望する機能などクールな機能満載。また、他にもまだまだたくさんの機能があるぞ。次ページからドライバなどのインストールの方法から設定を詳しく紹介していくぞ。

It's COOL! Ubuntu7.10に標準搭載 ロースペックでも問題ナシ！

「Compiz Fusion」はロースペックな環境でも非常にサクサク動作する。Vistaと違ってわざわざ3Dの性能の高いグラフィックカードを買ってくる必要などないのだ。

It's COOL! VistaやMacを遥かに凌ぐ3Dエフェクトを実現

「Compiz Fusion」はVistaやMacにあるようなデスクトップエフェクトはもちろん搭載している。さらには、オリジナルのエフェクトも多数搭載されており、市販OSを凌ぐ完成度なのだ!

It's COOL! 多彩なプラグインでエフェクトを追加できる！

コミュニティからプラグインを探して追加すると新しい機能を追加することができるぞ。面白い機能や使える機能など色々あるので試してみよう。

VOL.1で紹介したBerylとは何が違うの？

本誌VOL.1の付録「オリジナル3D KNOPPIX」では「Beryl」という3Dデスクトップが搭載されていた。じつはこのBerylは、元々が「Compiz」というソフトから発生したプロジェクト。この度、本家であるCompizと統合されて「Compiz Fusion」と名前を変えて再始動になった。

xgl	VistaのAeroのように、デスクトップをベクトルで描画する仕組み。今まではCPUがデスクトップ上の点の色を計算していたが、GPUが画面描画を担当することができるようになる。
compiz	XGL上で動作するウインドウマネージャ（ウインドウのバーを付けたり、エフェクトを加えるためのアプリケーション）。米国ノベル社の開発。
Beryl	compizから派生。compizとの違いはプラグインの多さ、開発スピードの速さ、エメラルドの存在、コミュニティベースでの開発といったところだったが、現在は統合。
openGL	Direct3Dのように、3D描画のためのAPI。ただしOpenGLは機種に依存しないことを目的に開発されているので、UNIXでもWindowsでもOpenGLは利用できる。

Ubuntu7.04では「Beryl」を採用していた。コミュニティベースで開発されていて当時は、かなり高速に動作していた。なお、上の表では3Dデスクトップに関連するキーワードをまとめたので参考にしてほしい。

CompizFusion Startup STEP01

CompizFusionに必要な環境を確認！

Ubuntuを起動したら、試しに「Windows」キーと「Tab」キーを押してみよう。右図のような3Dエフェクト表示されない場合は別途グラフィックドライバが必要となる。逆に、ちゃんとエフェクトが表示される場合はすでに利用できる状態になっているので、9ページの設定と解説を参考にしよう。なお、グラフィックドライバを別途インストールする場合は、後述するバックアップをしてからインストール作業を行うことをオススメする。

要求スペックの詳細

操作	
CPU	GPUを搭載したPCなら、それほど重要ではない。Intelのオンボードビデオを使っている場合は、なるべく速いCPUの方が快適に使えるはずだ。
メモリ	3Dデスクトップを使うだけなら、Windowsが動く程度の容量で大丈夫だ。だが、たくさんのソフトを起動するときは当然メモリ容量が大きい方がよい。
GPU	オンボードビデオでも動作可能だ。だが、GeForceやRADEONといったGPUがあるとより快適に3Dデスクトップを使える。

もっとも重要なポイントはグラフィック環境を知ること

インストールを行なうときに重要なのが自分のPCに搭載されているグラフィックカードの種類だ。自分のPCに入っているカードの種類が分かっている場合には特に問題はないが、もしも不明な場合には下で紹介しているような専用ソフトを使って、Windows上で確認しておこう。もしオンボードのグラフィックボードである場合は、とくに別途ドライバは必要ないが、もしもATI製やnVidia製のグラフィックボード場合にはインストールの作業が必須になる。

nVidia製グラフィックカードの場合

nVidiaのカードの場合にはドライバのインストールの作業が必須になる。とはいえ、ドライバのインストール作業自体は非常に簡単に実行可能。nVidia製の高性能なドライバがインストールされるので3Dデスクトップを楽しむのには一番オススメな環境だ。

ATI製グラフィックカードの場合

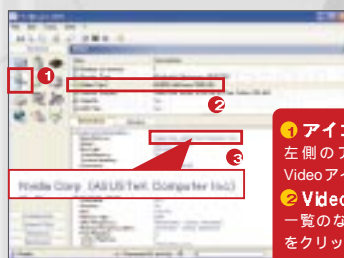
ATI製のグラフィックカードの場合にはインストール作業はnVidiaに比べて、若干面倒で、バックアップを取ってから作業を行なう必要がある。しかしながら、3Dの性能も高く、ドライバもしっかりしているので3Dデスクトップを十分楽しむことは可能だ。

オンボードグラフィックカードの場合

オンボードの場合には何も設定する必要なく3Dデスクトップを実行することができるはずだ。他の2種類のグラフィックカードに比べて3Dの性能が見劣りするが、ゲームなどと違いCompizFusionの動作は軽いので問題なく3Dデスクトップを使えるぞ。

自分のパソコンのグラボを調べるには

まずは、自分の環境に合わせたグラフィックボードのドライバをインストールしよう。ただし、グラフィックボードの種類によって作業が変わるため、Windowsを起動後、こちらのツールを利用して搭載されえいるグラボの情報をチェックだ！

PC Wizard 2008
作者名：Laurent KUTIL/Franck DELATTRE
入手先：http://www.cpuid.com/pcwizard.php

Windows上で「PC Wizard」を起動して自分のグラフィックカードを確認しよう。

❶アイコンをクリック
左側のアイコンのなかからVideoアイコンをクリック。
❷Video Cardをクリック
一覧のなかから「Video card」をクリック。
❸カードの種類が表示
下にカードの種類が表示されているので確認しよう。

グラフィックの設定ファイルをバックアップ

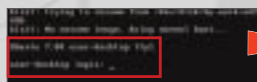
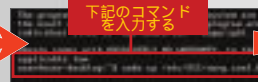
3Dデスクトップをインストールする際、グラフィック環境(X Window System)の設定変更を行なう。もし設定に失敗してしまうとグラフィック環境が壊れてしまうぞ。あらかじめバックアップを取っておけば、デスクトップがきちんと表示されなくなっても、復旧することができるので、まずはバックアップの取り方、復旧方法を確認しておこう。

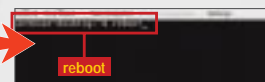
●バックアップファイルを作る

```
sudo cp /etc/X11/xorg.conf /etc/X11/xorg.conf.bak
```

バックアップの取り方は、ターミナルを開いてコマンドを打てば良い。このコマンドでグラフィック環境の設定ファイルのバックアップファイルが作成される。もし設定に失敗してしまったら、このバックアップファイルから前の設定に戻そう。

●バックアップファイルを復旧する

設定に失敗すると、黒いログイン画面になってしまう。とりあえず、ユーザー名とパスワードを入力することでログインはできる。しかし、グラフィック環境は使えないのでコマンドラインしか使うことができない。ここでは、コマンドラインを使ってバックアップからグラフィック環境を復旧しよう。

失敗してしまうと真っ黒いログイン画面になるが、通常の場合と同じようにログインできる。

ログインできたら下記の復旧用コマンドを間違わないよう注意して入力する。

```
sudo cp /etc/X11/xorg.conf.bak /etc/X11/xorg.conf
```

「reboot」と入力して再起動。通常画面に戻っていれば成功だ。

CompizFusionのスゴさをとりあえず体感

YouTubeにはCompizFusionの動画が非常にたくさんアップされている。実際にUbuntu上で使ってみる前に、これらの動画をチェックして雰囲気を楽しむことができるぞ。新機能紹介の動画などもあるので、以前使っていた人も要チェックだ。

YouTube
URL:http://www.youtube.com/

今まで、Windowsでは見たこともないような様々な3Dデスクトップを見ることができる。特に有志の作成したプラグインなどをチェックするには持ってこいだ。

CompizFusion Startup STEP02

グラフィックドライバをインストールしよう!

ATI（現AMD）製やnVidia製のグラフィックカード（ビデオカード）を利用している場合、3Dデスクトップを使うためにはそれらのドライバ設定が必要となる。特に、ATI 系のグラフィックカードを使っている人はちょっと複雑なので、注意して作業をすすめてほしい。失敗すると画面が表示できなくなってしまうので、必ず7ページの手順に従いバックアップをとってから作業しよう。バックアップさえあれば画面が写る状態に戻れるので、安心して作業が行えるぞ。

パターン#1 ATI製グラフィックボード用ドライバをインストールする

グラフィックボードがATI製である場合、ドライバをインストール自体は、設定画面上からチェックをいれるだけなのだが、その後に、設定ファイルを書き換えるという手順が必要となる。これらの設定を間違うと画面が真っ黒になって作業がまったく出来なくなってしまうので、しつこいようだが必ずバックアップを取っておこう。

1 設定画面を開く

「システム」メニューから「システム管理」→「制限付きドライバの管理」を選択し、設定画面を開く。

2 ドライバを有効にする

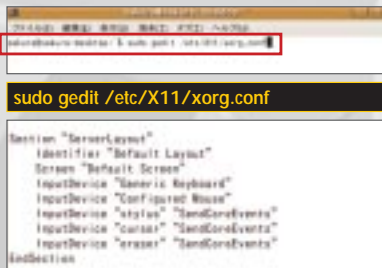
使用できるドライバがリスト表示されるので、使用するドライバの「有効にする」にチェックをいれる。

3 端末を起動する

つぎに「アプリケーション」メニューから「アクセサリ」→「端末」を起動する。この端末からドライバの設定を開始する。

4 設定ファイルを開く

```
sudo gedit /etc/X11/xorg.conf
```

```
Section "ServerLayout"
    Identifier "Default Layout"
    Screen "Default Screen"
    InputDevice "Generic Keyboard"
    InputDevice "Configured Mouse"
    InputDevice "stylus" "SendCoreEvents"
    InputDevice "cursor" "SendCoreEvents"
    InputDevice "eraser" "SendCoreEvents"
EndSection
```

端末が開いたら、左のとおりコマンドを入力して、設定ファイルを開く。この中から「Server Layout」という文字列を探そう。

5 ファイルを書き換える

```
Section "ServerLayout"
Identifier "Default Layout"
Screen "Default Screen"
InputDevice "Generic Keyboard"
InputDevice "Configured Mouse"
InputDevice "stylus" "SendCoreEvents"
InputDevice "cursor" "SendCoreEvents"
InputDevice "eraser" "SendCoreEvents"
Option "AIGLX" "false"  ←※この行を追加
```

「ServerLayout」の項目を見つけたら、上のとおりに新たに一文を追加後、設定ファイルを保存しよう。

6 再起動してドライバ設定完了!

これで設定完了。再起動後には3D デスクトップが使用可能になっている。失敗したらファイルを復元して再チャレンジだ。

パターン#2 nVidia製グラフィックボード用ドライバをインストールする

nVidia製グラフィックボードの場合にもドライバの設定が必要となる。しかし、ATI製と比べて、インストールは非常に簡単。本体をインストールするだけで、設定ファイルを書き換えたりといった作業は自動的にしてくれるので、ATI製のように端末からの操作をする必要はナシ。CompizFusionを楽しむならnVidia製のほうがオススメなのだ。

1 設定画面を開く

「システム」→「システム設定」→「制限付きドライバの管理」を起動。ATIと同様の画面が表示されるぞ。

2 ドライバを有効にする

nVidia用のドライバにチェックを入れる。インストーラが起動してインストールが行なわれる。

3 再起動してドライバ設定完了!

さっそくCompizfusionを起動だ!!

これでグラフィックボードの設定は完了。Ubuntuを再起動して、さっそく各種設定に移ろう!

CompizFusion Startup STEP03

Compizfusionを起動しよう!

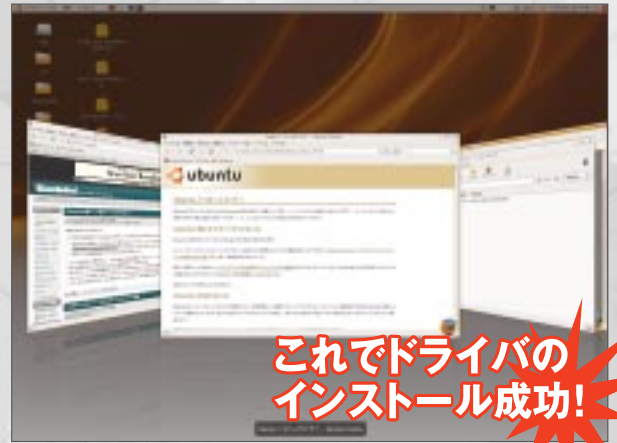
ドライバの設定が終わったら次は実際に3Dデスクトップを起動してみよう。3D デスクトップの基本設定がふたつある。「通常効果」の方だとそこまでエフェクトなどは使わない。「Extra」だとウィンドウがゆがんだりするエフェクトなどもつく設定になる。

起動後、試しに「Windows」+「Tab」を押すと、下のような、アプリケーションの切り替えエフェクトが起動するぞ。ウィンドウをめくりながら、自分が使いたいアプリケーションを簡単に切り替えることができるのだ。

1 外観の設定を開く

まず、デスクトップの「システム」メニューの「設定」から「外観の設定」を起動しよう。この設定画面は、壁紙やウインドウをカスタマイズする際に利用する設定画面と同じものだ。（詳細は106ページからを参照）

2 3Dを有効にする

「外観の設定」が開いたら、「視覚効果」タブに移動して視覚効果を「効果なし」から「通常効果」に変更しよう。すると3Dデスクトップが起動する。「Extra」にするとさらに派手になるぞ。

CompizFusion Startup STEP04

Compizfusion用設定ツールをインストールしよう

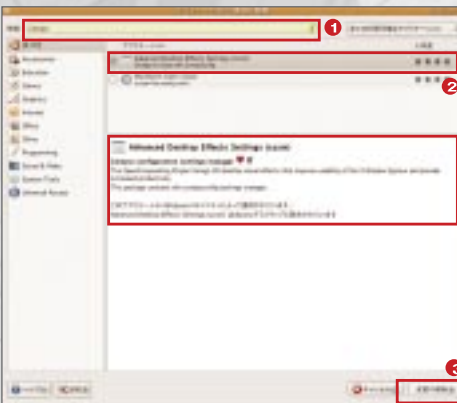
CompizFusionでは、実は設定ツールが標準ではインストールされていない。標準の状態ではほとんどの機能が使えなので、まずは設定ツールのインストールしよう。

3Dエフェクト管理ツールはインストールの必要アリ

CompizFusionでは、本体だけでも、エフェクトを使うことは可能だが、その機能を細かく設定するには専用ツールを別途インストールする必要があるのだ。

1 「追加と削除」を起動

まずは3Dデスクトップの設定ツールをインストールするために「アプリケーション」→「追加と削除...」を起動しよう。ドライバと違いインストールは簡単にできるぞ。

2 「Advanced Desktop Effects Settings」をインストール

❶ まずは上の検索バーに「compiz」と入力しよう。すると下のウィンドウに設定ツールが表示される。
❷ 表示結果の設定ツールのチェックをオンにしておこう。これで設定ツールがインストール対象になる。
❸ 最後に「適用の変更」をクリックするとインストールが開始されて自動的に設定ツールがインストールされる。

3 設定ツールを起動

設定ツールは、「システム」メニューの「設定」から「Advanced Destop Effects Settings」を選択すれば起動することができる。

4 設定ツールが起動

設定ツールは、エフェクトごとに区分けされて分かりやすく表示されているので変更したい設定をすぐ見つけられるぞ。各エフェクトについては、次の10ページにて解説しているので参考にしよう。

インストールできない場合は？

左で解説しているとおり、「追加と削除」からインストールできない場合は「Synapticパッケージ・マネージャ」からインストールしてみよう。Synapticに関する詳しい解説は28ページを参照しよう。なお、こちらからインストールする場合は、ファイル名が「compiz comfig-settings-manager」となる。

Synapticマネージャーを開き、検索ウインドウかあ「compiz」と検索。上記のとおり、「compizconfig-setting-manager」を選択する。

こちらは設定画面の全体図。チェックを入れることができる項目だけでも62もあるのだ。

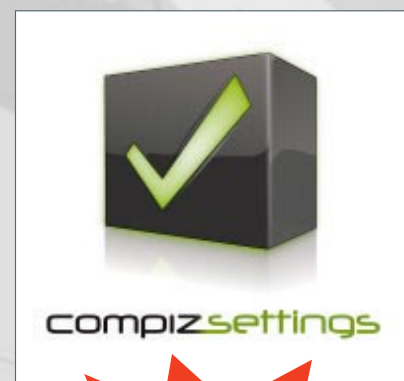
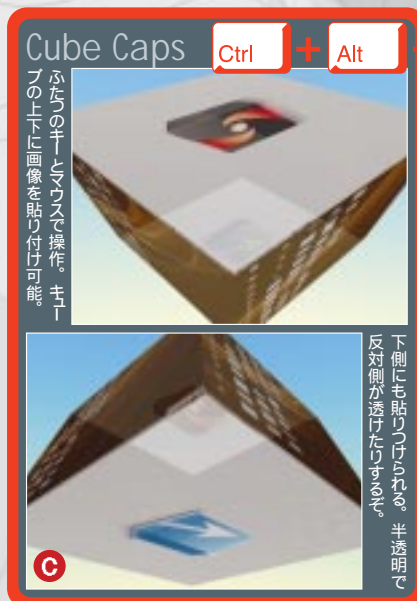
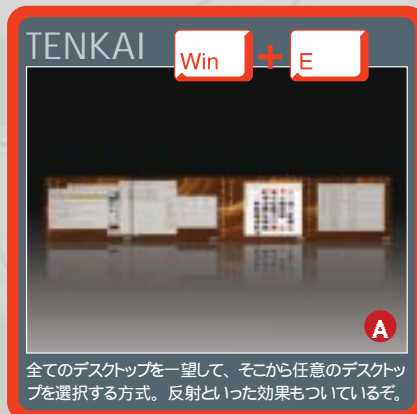
全てのデスクトップを一望して、そこから任意のデスクトップを選択する方式。反射といった効果もついているぞ。

「Ring スイッチャー」ではウインドウをリング型にならべて、そのリングをくるくるまわして選択する選択方式だ。

結構楽しいので暇なときにオススメなのが「炎を描画」の機能だ。デスクトップに落書きができるぞ。

ウインドウやキューブの回転にモーションブラー(残像)を残す設定が「ブラー」だ。

ふたつのキーとマウスで操作。キューブの上下に画像を貼り付け可能。

下側にも貼りつけられる。半透明で反対側が透けたりするぞ。

設定方法

基本的に設定ツールで全ての設定を行なうことができる。アイコンにチェックを入れればその機能が使えるようになる。詳しい設定を行ないたい場合やショートカットを知りたい場合にはアイコンをクリックすると設定画面が表示されるので確認しよう。このショートカットは重要なので覚えておこう。

基本はチェックを入れるだけ

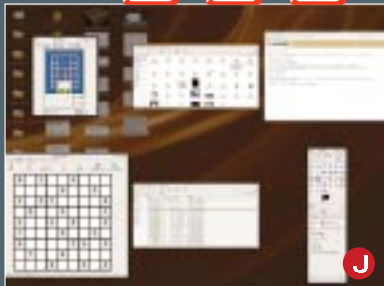
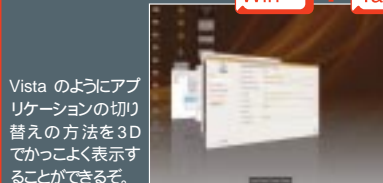
各種設定をするには、9ページでインストールした設定ツールをこちらのメニュー画面から開く。

チェックで機能のON/OFFをする。チェックを入れた直後からその3Dエフェクトが有効になるぞ。

こちらふたつのキーと左右矢印キーで自動回転、キー＋左クリックでドラッグすると手動回転となる。

各ウインドウを展開して表示することもできる。もちろんデスクトップ自体を選択することもできるので、非常に便利だ。

キューブの表示のときに下に反射する地面を設定できるぞ。地面があるだけで段違いにクールに見える。

キューブ自体の各種設定は、こちらの「デスクトップキューブ」の設定から行うことができる。キューブの底面色の設定や画像をはりつけたりすることができるぞ。

画面内にあるウィンドウを整頓して小さくして表示し、その中からクリックで選択するのが「スケール」だ。

Vista のようにアプリケーションの切り替えの方法を3Dでかっこよく表示することができるぞ。

しかもVista のように一種類ではなく、好きなものから選択可能なのだ。

これが CompizFusionだ!!

設定ツールがインストールされれば全てのエフェクト/機能が使い放題のCompiz Fusion!　クールなデスクトップを満喫しよう!!

詳細設定はアイコンから

各エフェクトの詳細設定をする場合は、チェックではなく、項目自体を選択する。

このような設定画面が開く。ここでは、3D効果のタイミングといったの細かい設定を行なうことができるぞ。

プラグインも追加可能

公式サイト（http://wiki.compiz-fusion.org/）からテーマやプラグインを入手して、機能を追加したり見た目を変更することができるのでお試しアレ。

Ubuntuベース最新Linuxを緊急レポート!

gOS徹底解剖!

Ubuntuをベースに Googleの連動をイメージして作成された「gOS」! その詳細をここでレポートするぞ!!

Google&Web2.0の使用を前提に開発された最新OS

「gOS」は11月1日に公開されたばかりの最新のLinux OSのディストリビューションだ。本誌でも詳細に扱っている「Ubuntu」をベースに開発されており、Ubuntuを少しでも触ったことがある人ならgOSもすんなりと使用できるはず。gOS最大の特徴は、Googleの提供する各種Webアプリケーションや、その他のWeb2.0サービスの使用を前提とするようなデスクトップの構成になっている点。デスクトップ画面下にはMacの「docs」風のランチャーを備えており、各種サービスをワンクリックで呼び出し&起動することができるようになっている。その大半はGoogleが提供するサービスとなっており、まさに「gOS」=“Googleユーザー向けOS”といえるような内容になっている。Googleのサービスを日常的に使用するユーザーにとっては非常に魅力的なOSといえるはずだ。ただし、gOSはGoogleの公式OSではないので、その点だけは注意しておこう。

gOSのランチャーには「Gmail」「Maps」「News」「Blogger」などのオンラインサービスが目立つが、Ubuntuなど多くのLinuxにも標準インストールされているフォトレタッチソフト「Gimp」やオフィスソフト「OpenOffice.org」などのオフラインソフトも、しっかりとプリインストールされているので、ネットにつながっていない環境であっても充分実用に耐えうる。このようにオンライン・オフラインともに充実したラインアップとなっているgOSは、幅広いユーザーに対応した新しい形のLinuxと呼べるだろう。

gOSのデスクトップ画面。現時点では英語版のみの公開となっているが、右のページの手順で日本語化することも可能。またgOSのISOイメージは付録DVDにも収録しているぞ。

gOS徹底解剖! gOSのデスクトップ画面と各項目の詳細

デスクトップに広がる魅力的な「Google apps」

gOSのデスクトップ画面で、真っ先に目に付くものといえば、やはり画面最下部のランチャーだろう。Googleアプリのグラフィカルなアイコンがずらりとならんでおり、クリックすることによって各サービスが起動(実際には各サービスへのショートカットとなっており、ブラウザが起動)する。

マウスをクリックすることにより表示されるメニュー画面はUbuntuの構成とほぼ同一となっているため、Ubuntuの操作に慣れている人なら問題なく扱えるだろう。表記はすべて英語だが、前述の通り日本語表記に変更することも可能だ。

gOS ●David Liu ●http://www.thinkgos.com/
●付録DVD Linux100%¥01)巻頭特集「gOS」に収録

gOS各ツールの使用方法

1 **gOS公式情報**
gOSの公式サイトへのショートカット。最新情報や最新バージョンの情報はここから入手できる。

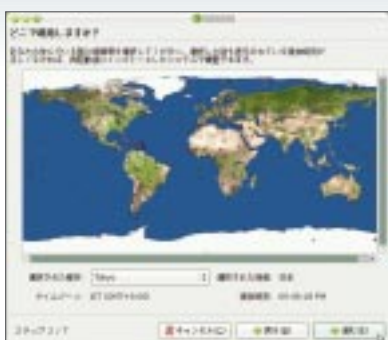
2 **各種デバイス**
gOSと接続している各種デバイスが表示される。「My gPC」はUbuntuでいう「ホーム」にあたる。

3 **Google Searchバー**
ブラウザを起動しなくても、デスクトップから直接Google検索を行なうことができる。

4 **ネットワーク**
ネットワーク情報を表示。クリックすると、現在のネットワーク状況が表示される。

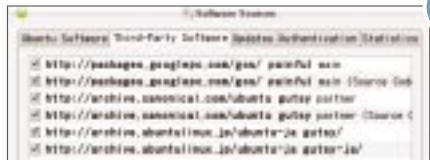
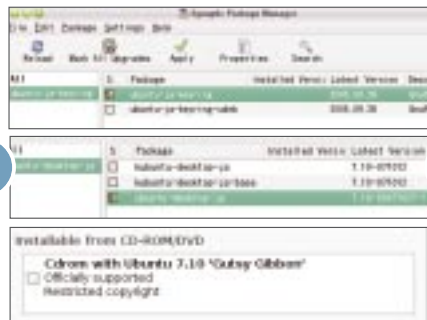
5 **時計**
外見そのまま。クリックすると時刻を表示する。

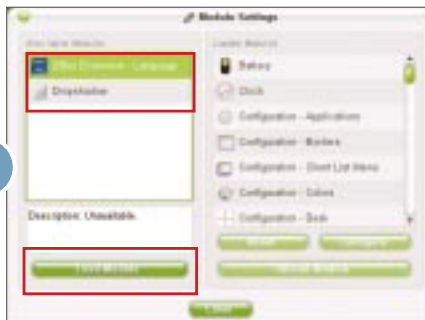
6 **Dock**
MacOSライクなランチャー。マウスオーバーにした状態でカーソルが左右の端まで進むと、隠れているアイコンがスクロールで表示される。

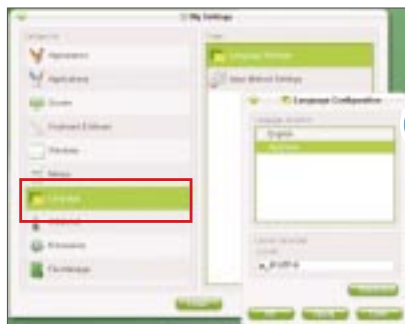
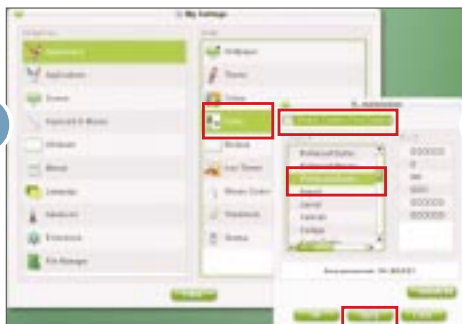
インストールはUbuntuとまったく同じ手順でOK

gOSのインストールはUbuntuとまったくの同手順。詳しくは巻末のインストールガイドを参照してほしい。

gOSのインストールと日本語化手順

リポジトリ等に関する解説は、本誌26ページからの解説を参照下さい。

■日本語ローカライズパッケージを検索&ダウンロード

「Synaptic Package Manager」にて「deb http://archive.ubuntulinux.jp/ubuntu-ja gutsy/」と「deb http://archive.ubuntulinux.jp/ubuntu-ja gutsy-ja/」のリポジトリを追加する。

「ubuntu-ja-keyring」と「ubuntu-desktop-ja」を検索してインストール。この時、「Ubuntu Software」タブ内の「CD-ROM With〜」以外のチェックをすべて入れておこう。

■モジュールの設定

一旦パソコンを再起動。メニューから「Configuration」→「Modules」を開く。左側に表示されているモジュールを下の「Load Module」をクリックしてすべて有効にしておく。

■言語とフォントの設定を変更する

メニューから「Configuration」→「My Setting」と進んだら、「Language」を選択。「Language Settings」をダブルクリックして「Japanese」を選択しよう。

同じく「My Setting」から一番上の「Font」を選択して、「Enable Custom Font Classes」にチェックを入れよう。その後で、「IPAMonaUIGothic」を選択して「Apply」で適用しよう。

■日本語化完了!

これで日本語化の作業は完了。ほぼすべての表記が日本語化されているはずだ。うまく適用されていない場合は一旦パソコンを再起動して、同じ手順を繰り返してみるとうまくいく場合がある。

gOSを使ってみる

充実のWeb関連アプリ群

ランチャーのアイコンをクリックすると各アプリケーションが起動。基本的に「プレイヤー系」や「Gimp」以外のアイコンはGoogleの各サービスへのショートカットとなっており、クリックすることによりすぐにサービスを使用することができる。

まさに、GoogleやWeb2.0の使用を前提としたOSのつくりになっているのだ。

gOSのランチャーの中身をチェックしてみよう!

gOS ランチャー一覧

Blogger	Google Docs and Spreadsheet	Wikipedia
Facebook	Google Maps	Xine Movie Player
Firefox	Google News	YouTube
GMail	Meebo	Rhythmbox Music Player
Google Calendar	Tech Support	

●Firefox

IEに次ぐシェアを誇る、タブ機能搭載のオープンソース・インターネットブラウザ。

●YouTube

もはや説明不明の世界的動画共有サイト。昨年秋にGoogleが買収して話題になった。

●Google Maps

Googleが提供する地図サービス。世界中の地図を航空写真を交えて表示可能。

●meebo

GoogleやYahoo!など複数のメッセンジャーを統合するWebサービス。

gOSが世界を席巻する!?

gOSを搭載した「gPC」というパソコンがアメリカで発売された。驚くべきは199ドル(約25,000円)という値段。破格のパソコンでLinux OSの世界制覇を狙った戦略の行方は果たして……!?

gOS搭載パソコンが199ドルで発売に!

「Google docs」と「OpenOffice」でシームレスな作業が可能

gOSから使用できる「Google docs」とフリーのオフィスソフト「OpenOffice」にはMicrosoft製Officeとの互換性がある。「Google docs」と「OpenOffice」を相互に使えば、オン/オフを問わずに作業を行なうことができるのだ。

ハードディスク不要のブータブルLinuxなのにデータ書き込みが可能！特許出願中の最新技術!!

myPdiscがアツい!!

OSを起動してしかもデータを書き込める「myPdisc」のスゴさをココで紹介！　某有名企業も注目するこの最新テクノロジーを使えば、いつでもどこでも君だけLinuxが起動するぞ!!

超有名IT企業も注目している「myPdisc」って一体ナニ？

「myPdisc」とはDVD-RAMメディアを使った再書き込み可能なライブディスク。つまりOSを起動しながら、データを保存することが可能なディスクなのだ。このディスク1枚を持ち歩くだけで、自分の使っている環境をどこのパソコンでも再現して作業ができる。まさに究極の携帯型パソコンなのだ!

通常の1DVD&1CD（ブータブルLinux）の場合

本誌Vol.1で紹介していたブータブルKnoppixの場合だと、データ保存にはUSBメモリなどが必要になる。

myPdiscの場合

myPdiscでは、データを起動したディスクに保存することが可能。つまり、データ保存用のUSBメモリなどは一切不要。

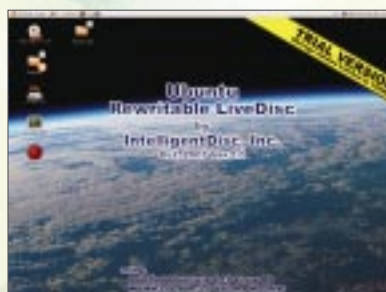
つまり、myPdiscとはデータが書き込み可能なブータブルLinuxなのだ!!

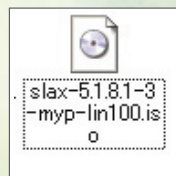
製品版myPdiscとの違いは何？

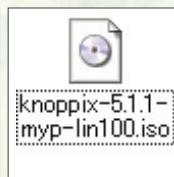
「Linux100%Edition」のmyPdiscと製品版との違いは、ディスク内部に確保されている保存用ストレージの容量の違いだ。製品版ではDVD-RAMの容量の大半を超える3GBがストレージとして確保されているが、今回のLinux100%Editionではその容量は128MBに制限されている。とはいえ、ワードやエクセルなどのファイルなら問題なく収容できるので思う存分使ってみよう。

付録DVDには3つのmyPdisc版Linuxが収録!!

myPdiscとは書き込み可能なライブディスクの総称であり、使えるLinuxにはさまざまバージョンがある。今回の付録DVD-ROM内には「Ubuntu」「SLAX」「Knoppix」の3つのディストリビューションが収録されている。各バージョンともさまざまな特長があるので、どれもオススメだ!

ubuntu-ja-6.10-myp-lin100.iso

本誌でも詳しく説明している「Ubuntu」も今回本誌のために myPdisc化された。インターネットと連動するガジェット的な機能を備えた新世代のOSだぞ。

slax-5.1.8.1-3-myp-lin100.iso

世界初のmyPdiscはこのSlaxがベースになって誕生したのだ。軽量なシステムで軽快な動作を可能にするぞ。

knoppix-5.1.1-myp-lin100.iso

デスクトップの3D化機能や、さまざまなフリーソフトのライブラリが魅力!　現在Ubuntuに並ぶ人気を誇るのがこのKnoppix。

1 データを書き込めるだけじゃない!! myPdiscのココがスゴい!

myPdisc is the hottest Linux!!

ただ「書き込める」ということだけがmyPdiscの凄さではない! ここではそれ以外の特長も合わせて、myPdiscをよりわかりやすく紹介していこう。

その1 ブータブルLinuxの利便性はそのままに設定は保存可能

myPdiscはDVD-RAMから起動することでデータの書き込みを実現

myPdiscの最大の特長は「起動ディスクに書き込める」ということ。これまで不可能だった起動ディスクへの書き込みは「DVD-RAM」という書き込みができるメディアの使用と、特許出願中の新技術によって成り立っているのだ。また、最近の検証により一部のメーカー製の「DVD+RW」ドライブでの使用も可能なことが明らかになった。これにより、非常に多くのパソコンでmyPdiscが使えるようになったのだ。

今回編集部での実験に使用したのは左端のもの。DVD-RAMには「データ用」「動画用」などさまざまなものがあるが、基本的に中身は同じなので、特にデータ用にこだわる必要はないぞ。

その2 ディスク1枚起動できる究極のセカンドマシン環境

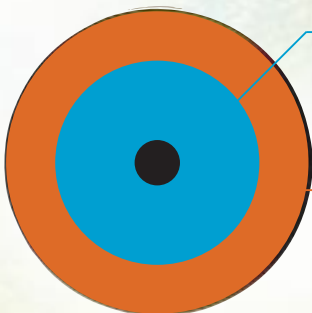
ハードディスク内のメインOSはそのまま気軽に楽しめる究極のセカンドOS

通常、複数のOSを使用する場合、ハードディスクを分割して、それぞれを別の領域にインストールなどの作業が必要となる。だが、myPdiscならそんな心配は無用だ。使いたいときにディスクをドライブにセットして起動するだけで使うことができるぞ。さらに、データはすべてディスク上の記録領域に保存されるため、パソコン(HDD)内に入っているOSには一切影響をおよぼさないのだ。自分のパソコンのみならず、出先などでも普段自分の使っているOSが使えるのは非常に便利だぞ!!

USBから起動するLinuxもあるが、マザーボードがUSBブートに対応している必要がある。その点、ドライブ起動のmyPdiscはよりパソコンを選ばない。

その3 ウイルスは不可侵ゆえにセキュリティも完璧

DVD-RAMとして起動できない環境でも自動的に通常のブータブルLinux起動に

基本的にDVD-RAMドライブでの使用が前提のmyPdiscだが、ROMドライブで使用した場合でも、普通にLinuxのブートドライブとして使える。出先のパソコンでいつものブックマークを使ってWebを閲覧したい場合に便利だし、さらにLinuxのインストールディスクとしても使えるぞ。また、myPdiscの内部は「ROM領域」と「RAM領域」に分かれており、ウイルスなどにも強く、セキュリティがあまり強くなさそうなパソコンであっても安心して使うことが可能なのだ。構造については右のとおりだ

RAM領域

各種設定やデータなどを書き込める領域はココ

myPdiscのディスク上には書き込み可能なRAM領域と、書き込み不可能なROM領域があり、データなどはすべてRAM領域に保存されるようになっているのだ。

ROM領域

システムを攻撃するウィルスも安心

myPdiscの基本システムはディスク上のROM領域に存在し、一切の改変が不可能。そのため、システムに影響を及ぼすようなウイルスに対して非常に強いのだ。

Linux100%特別カスタム版myPdisc ライセンスについての注意

myPdiscは、本来販売されている製品だが、今回は特別カスタム版として付録DVD-ROM内に収録されている。そのため、ほかのLinuxディストリビューションのように無料で再配布可能なわけではない。使う前には各バージョンのデスクトップ上などにある利用許諾PDFをよく読み、使用条件について正しく理解したうえで使おう。

Linux100%特別カスタム版 myPdisc 動作環境

- PC/AT互換機(DVD-RAMからのブートが可能な機種)
- CPU:Pentium 800MHz以上
- メモリ:512MB以上
- スーパーマルチドライブ(DVD-RAM対応ドライブ。ただし一部DVD+RWドライブでも動作可能)

myPdiscの作成＋起動方法

2 myPdiscを起動しよう!

myPdisc is the hottest Linux!!

myPdiscのスゴさがわかったところで、ここからは実際に付録DVDからmyPdiscを作成する手順を紹介していくぞ。誌面の通りに進めていくだけで、自分専用のLinuxディスクが完成するので非常に簡単なのだ!!

STEP0 まずは起動までのステップを確認しよう

起動までの手順は大まかに分けて３つ。STEP１ではディスクの作成に必要なハードをそろえる。STEP2では揃えたハードなどを使って、実際にディスクを作成していく。最後のSTEP3では、パソコンの設定を変更し、作成したディスクからの起動を可能にする。ところどころ注意すべき点はあるが、基本的には非常に簡単。パソコンの基本的な使い方がわかっている人であれば、問題なく起動までたどり着けるはずだ。

STEP1 必要なものを揃える
↓
STEP2 本体ディスクを作成する
↓
STEP3 PCのBIOSを設定する →

STEP1 データ／メディア／ドライブの３つが必要

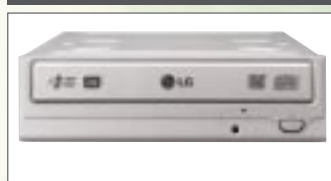
ディスクを作成するにあたって、「myPdiscのデータ」「書き込み用DVDメディア」「ドライブ」の3つが必要になる。このうち、myPdiscのISOイメージファイルは付録DVD-ROM内の「Linux100%」フォルダ内にあるので、あらかじめハードディスクにコピーしておこう。だが、その際3つまとめて一気にコピーすると、2GBを超える空き容量がハードディスクに必要になる。残りの容量が少ない場合は要注意だ。つぎに必要なのはデータ書き込み用のメディア。ここは当然、DVD-RAMを用意しよう。なお、DVD-RAMメディアにはデータ用やビデオ用があるが、どちらでも問題はないので悩む必要はないぞ。ドライブについては下で詳しく解説する。

本体ISOファイル

付録DVD-ROMからISOイメージファイルをコピーしよう。

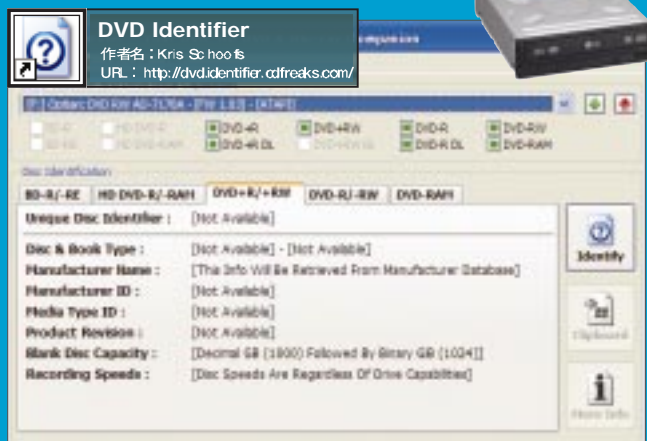
DVD-RAMディスク

データを書き込むためのDVDメディアも合わせて準備。

DVD-RAMドライブ

DVD-RAMが作成可能なドライブ。新たに購入する場合は「Supermulti」と表示があるものを選択しよう。

自分のドライブがRAM対応かどうかわからない場合はどうすればいいですか？

ドライブの対応がいまいちわからない人は、このWindows用ソフトを使おう。起動するだけで、DVD規格へのドライブの対応状況を表示してくれるのだ。

DVD Identifier
作者名：Kris Schoofs
URL：http://dvd.identifier.cdfreaks.com/

公式サイトからソフトをダウンロードしてインストールしよう。調べたいドライブは画面上のメニューから選択可能。対応状況がチェックボックスで表示される。

新たにRAMドライブを購入する際にオススメのドライブを教えて！

新しくドライブを購入するという場合は、以下のドライブを目安にしよう。これらは編集部やインテリジェントディスク株式会社で実際に使用し、動作が確認されているものだ。取りあえずコレを買っておけば間違いはない。またこれ以外のものを買う場合は「Supermulti」対応ドライブにしよう。

ソニーNEC AD-7170A

今回、編集部にて実際に使用したバルク品のDVD-RAMドライブ。秋葉原などのパソコンパーツ専門店なら、4,000円前後で販売されている。近くに店がない場合は、通販などを利用するのもひとつの手だ。

日立LG GSA-4163B

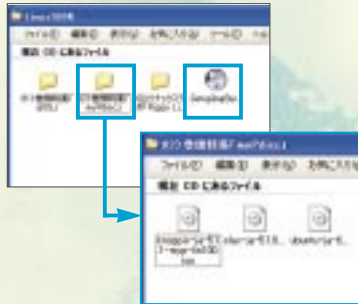
こちらは書き込みが確認されたDVD+RWドライブで数年前に発売されていた物。もしパソコンの内臓ドライブがこれならばラッキー。なお、現在市場に出回っているのは型番が同じでRAM書き込みに対応した新型だ。

RWでも書き込みができるのはなぜ？

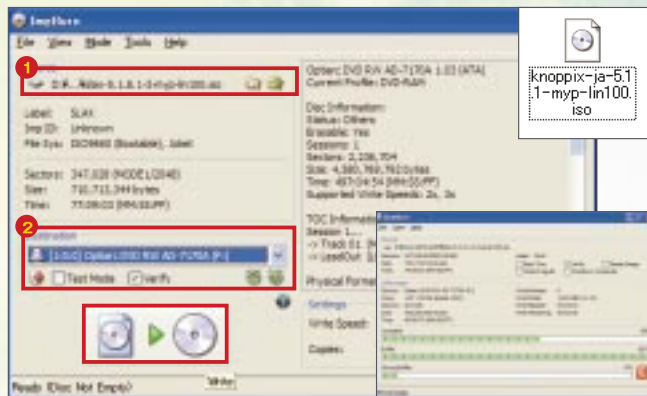
これはメーカーの方針の違い。書き込み可能なドライブの場合は、隠し機能的にパケットライトのファームウエアが内蔵されており、そのため、+RWドライブメディアでもRAMやHDD同様のパケット単位の読み書きができるのだ。

STEP2 起動DVD-RAMを作成しよう

基本手順は一般的なブータブルLinux同様、ISOファイルを焼くだけ

まずは付録DVD-ROM内、「Linux 100%」フォルダから使いたいディストリビューションのISOファイルをわかりやすい場所にコピーしよう。また、DVDにデータを焼くソフトがない場合は、同じフォルダ内に置かれているWindows用フリーソフト「ImgBurn」のコピーを行い、インストールしておこう。ファイルとソフトの準備が整ったら、忘れずにDVD-RAMメディアをドライブにセット。あとは、通常のライブディスクを作る場合の手順と同じように行おう。

Windows版ImgBurnでディスクを作成

ImgBurn
作者名：Lightning UK!
インストール方法：付録DVD-ROMより

メディアなどの準備が終わったら、ImgBurnを起動して「1:ディスクに焼くISOを選択」「2:作業に使うドライブを選択」をしよう。「1」については画面上の方にあるアイコンをクリックして選択可能。「2」は複数のドライブがパソコンに接続されていない場合は不要。作業が終わると、画面下のボタンがカラーになるので、クリックしてディスクの作成を開始しよう。

STEP3 myPdiscを起動！ 起動しない場合はBIOSをチェック

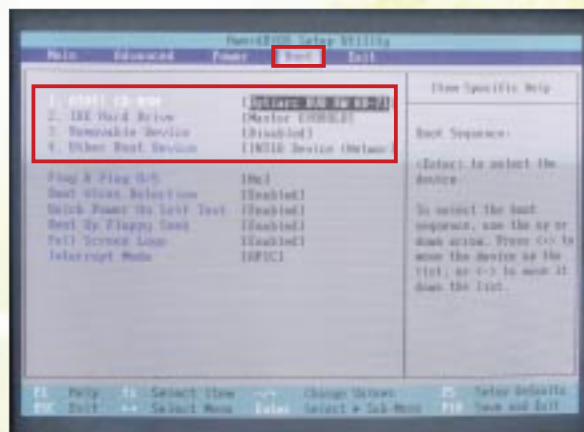
準備完了！ あとはディスクから起動するだけ

STEP2が無事に終わったら、作成したディスクをドライブにセットしたままパソコンを再起動しよう。ディスクの読み込みが始まれば成功。あとはLinuxが起動するのを待つだけだ。ただし、再起動してもWindowsが起動してしまうという場合は、起動時におけるDVDドライブの読み込み順序がハードディスクよりも後になっていることが考えられる。これを変更するには「BIOS」と呼ばれるパソコンの基本プログラムを設定し直す必要がある。というと難しそうだが、実際の作業は初心者でも簡単に行える。方法は下で紹介しているので、それを参考にしながら設定を行なってみよう。

起動しない場合はBIOSの設定を確認

BIOSの設定画面を呼び出すためには、パソコンを再起動し、電源投入直後の画面で特定のキーを押すこと。また、押すキーについてはBIOSやパソコンによって異なるのが、通常はDeleteあるいはF2キーだ。設定を変更したら、その設定を保存してBIOSを閉じよう。これでmyPdiscの起動が可能になるはずだ。

BIOSとは
Basic Input/Output Systemの略語で、内蔵から外付けまでパソコンに接続されるさまざまな機器を管理するプログラムのこと。

BIOS設定画面の呼び出し方法はパソコンによって違う。編集部のパソコンの場合、パソコンを再起動した直後に上の画像のように「Delete」キーを押し続けることで右の設定画面が表示される。

「Boot」タブを選択したら、DVDドライブがハードディスクよりも前に来るように設定し、保存して終了しよう。

3 myPdiscの正しい使い方
myPdiscでLinuxライフ

myPdisc is the hottest Linux!!

実際にmyPdiscを作成したら、さっそく使ってみよう。ここではmyPdiscを使う際の注意点や、設定方法などを紹介するぞ

その1 作成したデータやメール設定などをmyPdiscに保存しよう

作成したデータやファイルは専用フォルダで保存しよう

Liunxを使って作成した各種のデータの保存方法は、今回収録した各バージョンとも基本的に同じだ。各デスクトップには必ず「3GBストレージ（Strage）」という名前のフォルダがあり、これがmyPdiscの保存用領域を示している。これらのフォルダ内にデータを配置しておく事で、Linuxを終了してもデータが保存されるのだ。ただし、Knoppixについてのみデスクトップなどよく使う場所のファイルはそのままでも保存されるので覚えておこう。また、ストレージフォルダに関連してひとつ注意してほしいのが、ストレージフォルダ内に生成される「設定ファイル」の扱いだ。このファイルは一度でも電源を切ると作成され、内部には最後に保存した設定を書き込んである。そのため、不要なファイルなどと一緒にうっかり消してしまうと、各種設定まで一緒に消えてしまうのだ。また、デスクトップなどに移動しても設定は読み込まれなくなるので、慎重に扱おう。

ubuntu

SLAX

KNOPPIX

左大:KNOPPIX、右上小:Ubuntuj、右下小:SLAXの設定ファイル。初回起動時にはないが、一度でも「設定を保存」するとストレージフォルダ内に生成される。

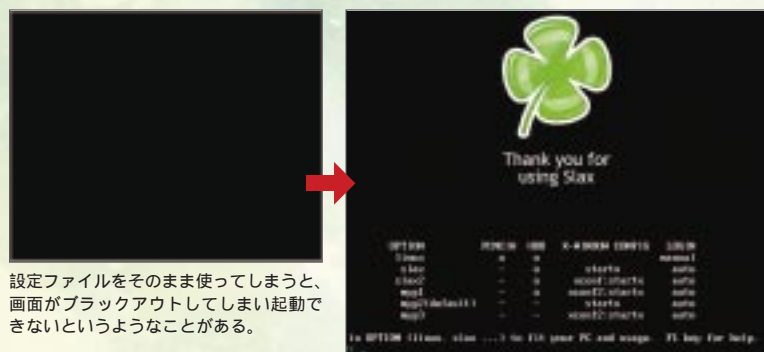
データを安全に保存する方法は各Linuxごとに異なるので注意

ストレージフォルダ内にデータを保存したからといって、いつもの方法でパソコンの電源を切るのは危険だ。myPdiscにはそれぞれのディストリビューションごとに設定を保存して終了するための、シャットダウン方法があるのだ。正しく電源を切らないと設定などが保存されないので注意が必要になる。各OSごとのシャットダウン方法については、この後のOS紹介ページにて詳しく説明しているぞ。

シャットダウンアイコンがmyPdiscの特徴だ。

その2 設定を保存したPCとは別のPCで起動する際の注意点

別のパソコンで安全にmyPdiscを起動する方法

保存したデータをほかのパソコンで使う場合には、ひとつ注意しなければいけないポイントがある。それは、先ほど説明したストレージフォルダ内の「設定ファイル」について。じつは、設定ファイルにはひとつのパソコン専用の設定が保存されている。そのため、ほかのパソコンでmyPdiscを使うときに、この設定ファイルを読み込んでしまうと、うまくOSが起動できない場合があるのだ。それを避けるためには「特定のコマンドを実行」「設定ファイルをあらかじめ消去」の2通りの手段がある。それぞれの詳細については、次ページからの各Linuxごとの使い方ページにて詳しく紹介していこう。

設定ファイルをそのまま使ってしまうと、画面がブラックアウトしてしまい起動できないというようなことがある。

付録myPdiscには128MBのデータ領域を搭載

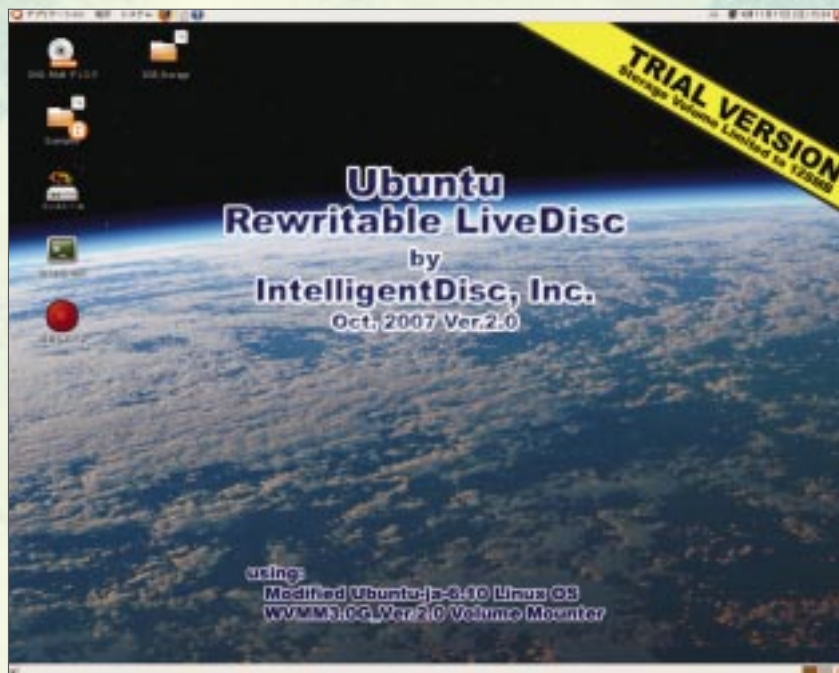
「Linux100% Edition」のmyPdiscと製品版の違いは、ストレージ容量の違いだ。デスクトップに表示されるストレージフォルダはどれも3GBと表示されているが、これは製品版での仕様。Linux100% Editionではその容量は128MBに制限されているので、保存するファイルの合計容量にはくれぐれも注意しよう。ちなみに製品版は、より大容量の光学メディアをmyPdisc化するべく開発が進んでいる。

表示上は3GBとなっているが実際には128MB。

大容量光学メディアに対応すれば、数十GBクラスのストレージ領域を確保することも可能になるぞ。ちなみに製品版のmyPdiscは、弊誌の締め切り時点で片面二層の再書き込み可能メディアへの対応を検討中だ。

4 各ディストリビューションの使い方
Linux100%版myPdiscカタログ

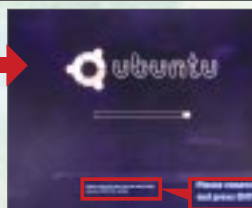
myPdisc is the hottest Linux!!

myPdiscの作り方がわかったら今度はディストリビューションの選択だ
ここでは各ディストリビューションごとに使い方を紹介していくぞ
この中からお気に入りを見つけて使ってみよう!!

#01.正しい起動方法と終了方法

起動方法

決まったパソコンで起動する場合には、左の画面のメニューの中から一番上に表示されている「Ubuntuの起動およびインストール」を選択しておけば問題ない。

終了方法

ダブルクリックしてシャットダウン開始。

「ディスクをドライブから取り出す」旨のメニューが出るので、取り出してEnterで終了。て終了だ。

#02.別のPCで起動する際の注意点

普段使っているパソコンと違う場合の起動時は、あらかじめ3GBストレージフォルダ内にある「backup.cpio」というファイルを消去しておけばOK。また、3GBストレージ以外の場所に移しておくことでも、ファイルの読み込みを回避することができるぞ。

#03.ハードディスクのマウントは?

通常のUbuntuをデュアルブートの環境で起動した場合、そのパソコンに入っているWindowsなど別のハードディスクをマウントして、その中身を読み込むことが可能だ。だが、体験板の場合、myPdiscのバグのせいか、Linuixのハードディスクは可能だが、残念ながらWindowsはマウント不可能だ。

製品版に先駆けて Ubuntu版myPdiscが登場!!

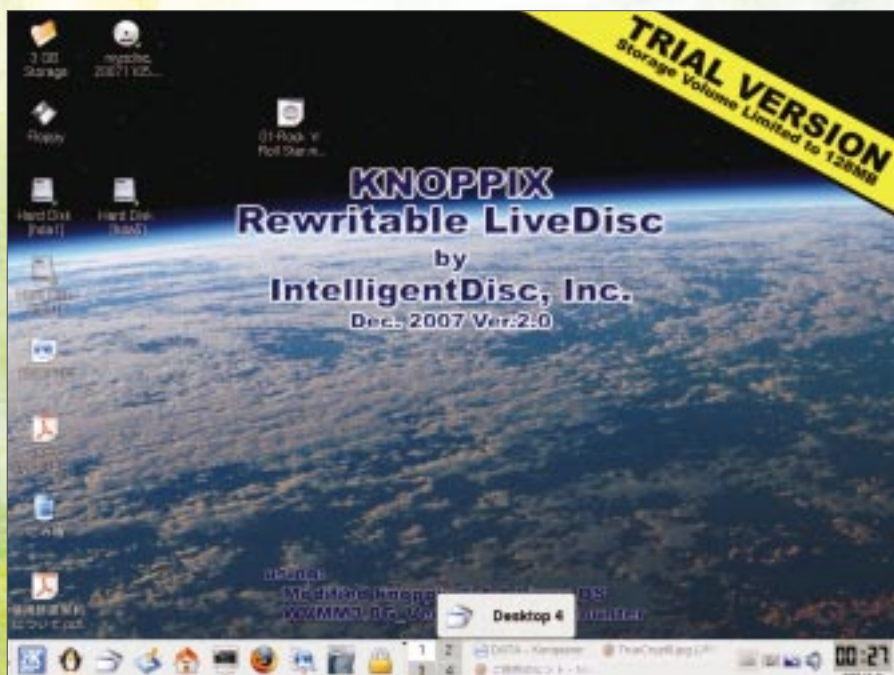
製品版未登場のUbuntu版myPdiscを特別付録DVDに収録しているぞ。扱いやすいインタフェースで人気のUbuntuをディスク1枚に収納していつでもどこでも扱えるのだ。

Ver.6.10安定版を収録

今回収録したUbuntu版myPdiscのベースになっているのは、安定した動作で非常に人気が高かったUbuntu Ver.6.10だ。現在の最新バージョンはVer.7.10なので、多少古い印象があるものの、インタフェースなどの基本操作関連に関していえば、この時点ですでに完成されており、DVD1枚で持ち運んで使うポータブルOSとして、十分に実用に耐えうるのだ。

Ubuntuの詳しい解説は第3特集へ

正真正銘これが世界初登場!
Linux100%完全オリジナル
新業界標準Linux版myPdisc

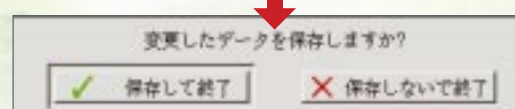
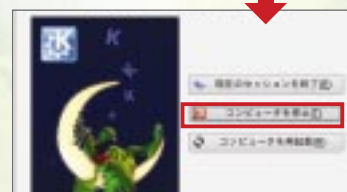
Ubuntu版myPdisc

#01.正しい起動方法と終了方法

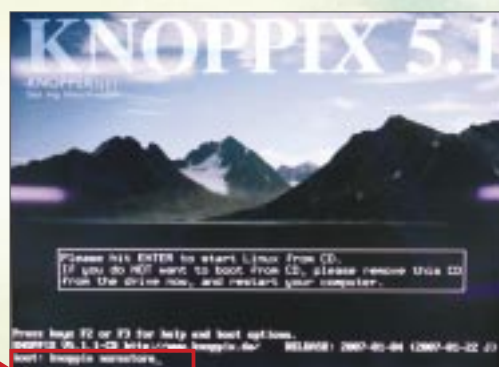
起動方法

Knoppixにも Ubuntu同様に各種起動モードを選択するための起動オプションが存在する。だが、Ubuntuのようにメニューが表示されるわけではなく、コマンドを入力して選択するという形式になっているのだ。そのため、普通に起動するのであれば、適宜メニューを「Enter」でスキップしていくだけで、標準モードのKnoppixが起動できるのだ。

Knoppixのブートが開始されるとこのようなペンギンがディスプレイの左上に表示される。あとはEnterキーを押していくだけで起動できるぞ。

通常の終了+保存ダイアログ

myPdisc-Knoppix版は、Ubuntu/Slax版のような終了アイコンがデスクトップに存在しない。終了するには画面左下のメニューから「ログアウト」を選択。通常の終了ダイアログの後に「設定を保存」関連のダイアログが表示される。

#02.別のPCで起動する際の注意点

KNOPPIXを別のパソコンで起動することがあらかじめわかっている場合は、3GBストレージから「knoppix.mo」を移動か削除しておけば問題ない。また、いちいち設定ファイルを消したくない場合には、起動時の入力画面で「knoppix norestore」と入力しよう。これで設定ファイルが読み込まれず、普段とは別のパソコンでも安定して起動することが可能になるのだ。

boot: knoppix norestore_

『Linux100%Vol.1』でも人気の定番ブータブルLinuxも収録

『Linux100% Vol.1』でも収録していた人気ディストリビューションのKnoppixも今回myPdisc化して収録。Ubuntuなどと比べて、よりWindowsに近いユーザーインタフェースを採用しているため、Linux初心者やWindowsからの乗り換えユーザーであっても安心して使えるのだ。

KNOPPIXってどんなOS?

もともとドイツで開発が進められているディストリビューションだが、日本語版は「独立行政産業技術総合研究所」において、研究対象とされたこともあるのだ。1CD/DVDでの使用を念頭において開発されており、周辺機器の検出機能に優れ、また、自分で設定しなくてもLANが使用可能などという便利な特長がある。最近では、3Dデスクトップにも対応しているぞ。

元祖ブータブルLinux!
動作も安定の超実用版myPdisc

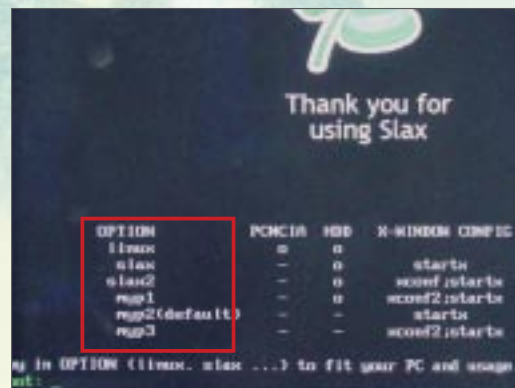
Knoppix版myPdisc

SLAX版myPdisc

機能を絞り込んだ軽量ディストリ
ファンも多い玄人志向版myPdisc

#01.正しい起動方法と終了方法

ハードディスクをマウントして起動する方法

SLAXには起動モードが複数ある。普通に「Enter」を押しても起動するが、それだと Windowsのハードディスクをマウントできない。起動モードは名称をタイプすることで選択できる。下の解説から使用目的に合ったモードを選ぼう。

slax myPdiscを起動するパソコンに接続されているのハードディスクや、USBメモリなどをマウントするのであれば、このモードで起動しよう。通常のSLAXと同様にそれらのデータを使用することができる。

myp2 なにも指定せずに「Enter」キーを押すとこのモードが起動する。セキュリティ強化のため、HDDやUSBメモリのマウントを一切受け付けないようになっているので、情報漏えいを防ぐならこのモードでの起動がオススメ。

終了ダイアログ

終了は、デスクトップにある「電源を切る」アイコンから。「slaxconf.mo」がまだ作成されていない場合には、設定を保存するかを聞くダイアログが表示される。これは設定ファイルがない場合のみで、既にファイルがあれば表示されない。

#02.別のPCで起動する際の注意点

「3GB_Storage」内にある「slaxconf.mo」を移動/削除しておけば大丈夫なのは、ほかのディストリビューションと同じ。単純にファイルが読み込まれないように起動するのであれば、起動中「Skip autorestore by /mnt/DATA/slaxconf.mo? [enter=confirm]」という表示のとき、約3秒以内にキーボードの「Enter」キーを押そう。これで設定ファイルの読み込みが回避される。

この設定ファイルをあらかじめ消去/移動してしまえば、あとはなにもしなくても起動する。

画面のメッセージが表示されている間（約3秒）に「Enter」キーを押すことで、設定ファイルの読み込みが回避される。

```
Skip autorestore by /mnt/DATA/slaxconf.mo? [ enter=confirm ] 0s
Timed out. Never mind, skipped.
```

軽快な動作が人気の ブータブル向きディストリビューション

最古のLinuxディストリビューションのひとつがこのSLAX。必要なソフトのみ絞り込んで内蔵するなど、軽快さに重点がおかれた設計でmyPdiscにはピッタリ。ROMから起動してもその反応は非常に早く、ストレスを感じさせない操作感覚は、1CD-Linuxは遅いという固定観念を覆すものだ。

SLAXってどんなOS?

SLAXもKnoppix同様CDブートが前提にあるディストリビューションだ。Knoppixがしだいに大容量化したのに対し、こちらはいまだに収録するソフトを絞り込むことでCD1枚で持ち運べるサイズを保っている。システムも軽量化されており、CDからの起動であっても、軽快に動作し、CDブートにつきものの、反応や挙動の鈍さには無縁。まさにmyPdisc向けのLinuxなのだ。

myPdiscを開発した「インテリジェントディスク株式会社」に訊く

編集部(以下編)　まず御社の概略につきましてお聞かせ願えますでしょうか。

インテリジェントディスク担当者(以下イ)　弊社は2002年設立で、非接触チップを埋め込んだ高セキュリティ光ディスク技術に特化したベンチャー企業です。myPdisc以外の製品を具体的にあげますと、「電脳盤」というものがあり、こちらは書き込み可能なメディアの板面にICチップを埋め込むことで、ディスクそのものを制御してセキュリティ面を高め、OSの安全な動作を可能にするというものです。

(編)　今回Linux 100%の付録DVDにも収録させていただいたmyPdiscですが、既に発売済みのバージョンにつきましてユーザーからはどのような反応、あるいは反響がお有りでしょうか。

(イ)　幅広い層の方から多くの反響をいただいておりますが、特にLinuxやUNIXの経験が深い方々、あるいは企業などからは好意的な反応をいただいております。

「電脳盤」もセキュアなディスクメディアなのだ。

(編)　今回DVDに収録させていただいたディストリビューション以外でも、今後myPdisc化される予定のあるLinuxなどはお有りでしょうか。

(イ)　myPdiscの技術はSUSEやFedora、またPuppyやFreeBSDなど、あらゆるディストリビューションに有効に適用可能です。そのため、はっきり予定が立っているという訳ではありませんが、需要さえあれば、どのようなLinuxでもmyPdisc化して製品化することができると考えております。また、Linux以外のBertPEなど適用することも可能でしょう。

(編)　それではLinuxをはじめとするオープンソースと呼ばれるものの今後の展開につきまして、どのようなご展望をお持ちでしょうか。

(イ)　たとえば最近になって登場したgOSのようにその完成度は非常に高くなってきています。そのため、今までMacやWindowsなどの商用OSが占めていた領域にまでも非常に速いスピードで浸透していくのではないでしょうか。そのキーワードは明解なユーザーオリエンテッドの精神であると思います。

(編)　わかりました。本日はお忙しいところありがとございました。

インテリジェントディスク株式会社公式サイト　http://www.intelligentdisc.com/

Linux100% 読者プレゼント

01 myPdisc　10名様

付録DVD-ROMにも収録された「myPdisc」の製品版をなんと10名様に。

02 DVD-RAMドライブ　3名様

DVD-ROMしかないという人のためにDVDスーパーマルチドライブ。編集部で実際に使用したものと同型機なのでmyPdiscの起動もばっちり検証済みだ。

03 USBメモリ　5名様

今回Linuxラボで扱っているUSBメモリネタを試したい人にはコレ。自分のOSを持ち運んでどこのパソコンでも使うことが可能だぞ。

04 iPod nano 8GB　1名様

もう説明不要のApple製ポータブルオーディオプレイヤー。液晶が大きくなりさらに見やすくなった。iPod Linuxの対応が待たれる。

応募方法

巻末の綴じ込みアンケートハガキに必要事項を記入のうえ御応募下さい。希望商品やあなたの連絡先のほか、アンケートへの御回答もお忘れなくお願いいたします。プレゼントへの応募は3月12日(水)到着分まで有効とさせていただきます。くれぐれも希望のプレゼント番号など書き忘れのないよう御確認のうえ御応募下さい。なお、当選者の発表につきましては、商品の発送をもって代えさせていただきます。たくさんのおハガキをお待ちしております。

インストールから完全解説で、誰でも使える
Ubuntu ツール!!　これならもうWindows
からの乗り換えも怖くない!

第1特集

CONTENTS

ここから紹介するソフトのインストール方法についてはすべてUbuntuを対象にしています。

完全保存版 このフリーソフト

インストールから
完全解説
がスゴイ
reSoft

ソフトウエア Ubuntu定番ソフトの インストール方法をレベル別に紹介

Ubuntu software インストール完全ガイド

Ubuntuでは、様々な用途を持つソフトウエアが充実しているが、そのインストールには複数の方法が存在する。ここでは、難易度別に分けていくつかの方法を解説していこう。

Level.01 「追加と削除」で楽に追加

「アプリケーションの追加と削除」を使って、もっとも簡単なインストール/アンインストール方法をマスターしよう。 GUI

Level.02 「Synaptic」と「apt-get」から追加

「synaptic」と「apt-get」を使って「追加と削除」でインストールできないソフトウエアをインストールしよう! GUI コマンド

Level.03 「ソースをコンパイル」してレアもの追加

難易度は高いが、移動や解凍を意のままに操ることができるソースからコンパイルしてのインストール方法を紹介。 コマンド

Level.EX ソフトが見つからない場合には?

「リポジトリ」を追加してインストール可能なソフトウエアを増やす。

まずはここから始めよう「アプリケーションの追加と削除」 Level.01

Ubuntuでソフトをインストールしたい場合には「アプリケーションの追加と削除」がオススメだ。Ubuntuを操作する上で、基本中の基本テクニックであり、手軽にインストールするときはこの方法で十分なのでしっかりマスターしよう。なお、これ以降の作業にはすべてインターネット環境が必要となる。

「追加と削除」でソフトをインストール

「追加と削除」は「アプリケーション」の一番下にある。起動するとウィンドウが表示され、ソフトウエアを探してインストールを手軽に行なうことができるほか、アンインストールもこの画面上で行なうことが可能だ。ここではメールソフトの「Thunderbird」のインストールを例に使いかたをマスターしよう。

01 メニューから起動

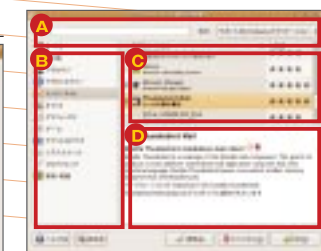
Ubuntuのメニューから「アプリケーション」→「追加と削除」をクリックして起動。

02 パスワードを入力

パスワードを聞かれるのでインストール時に設定したパスワードを入力。

03 メニューからソフトを探す

Thunderbird を探す。左のタブを「インターネット」にしておくと探しやすい。

04 追加するソフトをチェックして「適用」

画面には他にも機能がたくさんある。ジャンル別に探したりソフトウエアの検索が行なえたりするぞ。

Thunderbird が見つかったらチェックボックスにチェックを入れる。「適用」ボタンを押すとチェックしたソフトのインストール準備が開始されるぞ。

A ここに入力した単語で検索を行なうことができる。検索結果にはソフトウエア名以外にも詳細の内容も反映される。

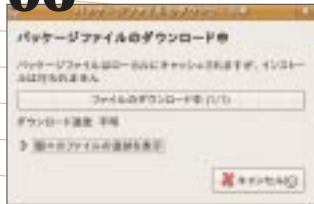
B ソフトウエアがジャンル別に整理されている。希望ジャンルをクリックするとそのジャンルのソフトウエアだけが表示されるぞ。

C 検索の結果や選択しているジャンルのソフトウエアが一覧表示される。このアイコンにチェックするとインストール対象になる。

D 選択しているソフトウエアの詳細な情報が表示されるぞ。英語の場合が多いが読んでおくと有益な情報も書いてあることがある。

05 最終確認

インストールするソフトの確認ダイアログが表示される。正しければ「適用」をクリックしよう。

06 ダウンロード&インストール開始

選択したソフトをインターネットからダウンロードしてインストールする作業が開始される。

07 インストール完了

インストールが完了すると上のウィンドウが出る。「閉じる」をクリックしよう。

08 インストール後の確認

ソフトが使用可能に!!

最後にメニューのどの部分に追加されたかが表示されるので確認しておこう。

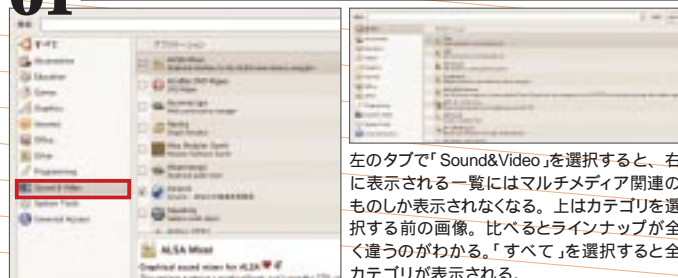
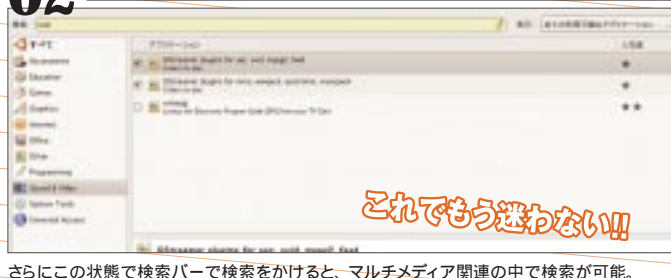
ジャンルや検索を使いこなせば「追加と削除」がもっと便利に

ウインドウの左側のメニューには「Internet」や「Sound&Video」などといったソフトウエアの「ジャンル」が書いてある。これを選択することでインストールするアプリを探すことも可能なので有効に使おう。暇なときに眺めていると面白いソフトウエアを発見できるかもしれないぞ。また、すでにソフトウエア名が分かっている場合には、メニュー上部分の「検索バー」を使うことで探しているソフトがすぐに見つかるようになるのだ。

01 カテゴリを選択

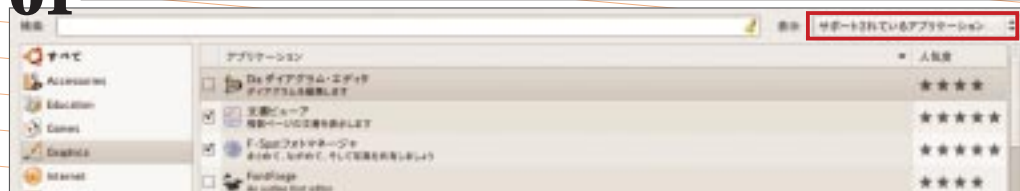
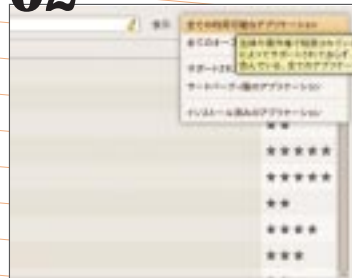
左のタブで「Sound&Video」を選択すると、右に表示される一覧にはマルチメディア関連のものしか表示されなくなる。上はカテゴリを選択する前の画像。比べるとラインナップが全く違うのがわかる。「すべて」を選択すると全カテゴリが表示される。

02 さらに検索をかける

さらにこの状態で検索バーで検索をかけると、マルチメディア関連の中で検索が可能。

インストールできるソフトウエアを増やす

「追加と削除」の標準の状態では、インストールできるソフトウエアに制限がかかっている。これはUbuntu が公式にサポートするソフトウエアしかインストールしないようにするためだ。これを解除してしまえばより多くのソフトウエアがインストール可能になるぞ。

01 右上のタブを確認

まずは右上にあるタブを確認。標準の状態では「サポートされているアプリケーション」になっているはずだ。

02 タブの絞り込み設定を変更

タブをクリックして「全ての利用可能なアプリケーション」に変更しよう。選択時にしばらく待つと黄色い枠で説明や警告が表示される。

03 カテゴリで絞り込み

インストール可能なソフトウエアが増えた。ここからさらにカテゴリを選択していこう。

「追加と削除」を使ってのアンインストール方法

ソフトウエアのアンインストール方法は非常に簡単。インストールの場合とほとんど同じ操作でアンインストールを行なうことが可能だ。Windowsと違い標準装備されているソフトウエアも消したりすることができるので、まったく使うことのないソフトはこの方法で消してしまおう。

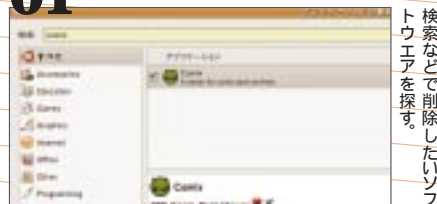
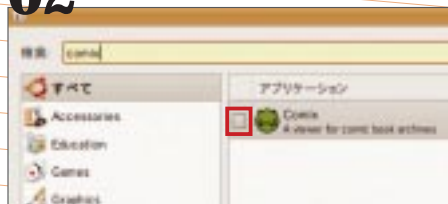
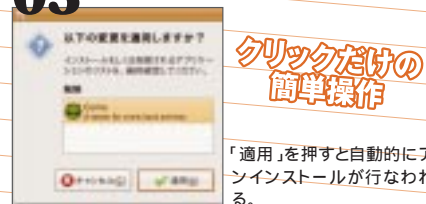
01 アンインストールするソフトを探す

検索などで削除したいソフトウエアを探す。

02 チェックを外す

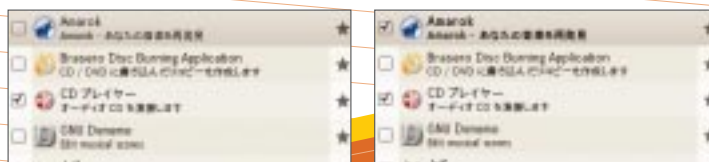
チェックの状態を変更する。

03 最終確認をしよう

「適用」を押すと自動的にアンインストールが行なわれる。

インストールされているソフトを確認できる

「アプリケーションの追加と削除」は、文字どおりソフトのインストールやアンインストールのためのツールだが、本来はパッケージ管理ツールとしての役割を担っている。つまり、ここを見れば自分のUbuntuにどんなソフトウエアがインストールされているかが一目瞭然ということ。1台のパソコンに入るソフトは限られるだけに、ソフト管理のためにも活用しよう。

Synapticを使ってみよう Level.02-A

Synaptic パッケージ・マネージャ

標準のツールである「アプリケーションの追加と削除」は簡単にインストール可能なものしかリストに出てこない。つまり、「追加と削除」ではインストールできないソフトウエアが存在するということだ。そこで、こうしたソフトウエアをインストールするための方法として、「Synaptic」というパッケージ管理ツールの使い方を紹介していこう。これまでインストールできなかったソフトも、この方法を使えばインストールできるハズだ。

Synapticでインストール

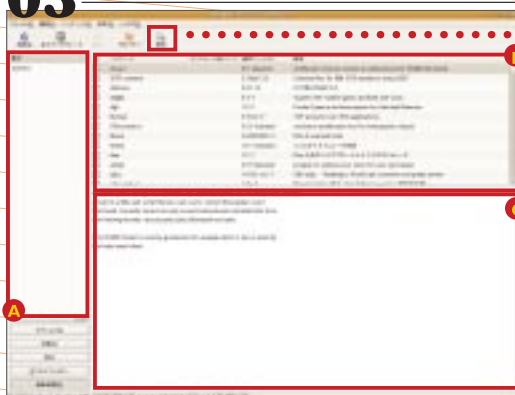
ここでは、Synapticを使ったインストールの例としてビットトレント用のファイル共有ソフト「Azureus」のインストールを行ってみる。「アプリケーションの追加と削除」と違う点として、チェックボックスにチェックを入れただけではインストールされないということに注意しよう。

01 メニューから起動

Synapticは「システム」→「システム管理」から起動。

02 パスワードを入力

パスワードを聞かれるのでUbuntuに設定したパスワードを入力しよう。

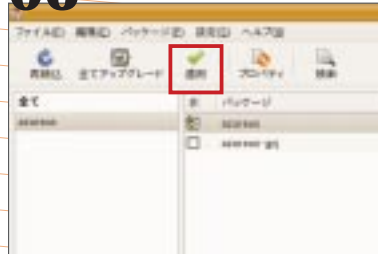
03 メニューからソフトを探す

検索ボタンをクリック。表示される検索ウインドウにして「Azureus」と入力。

A 追加可能なソフトの大まかなジャンルがココに表示されるので、まずはここからクリック。
B ジャンルを選択すると、そこに含まれるソフトが一覧でこのエリアに表示される。
C Bでソフトを選択すると、この部分にソフトの簡単な解説が表示される。

04 検索結果が表示される

右側に「Azureus」が表示される。ここで「Azureus」と書かれている場所をダブルクリックすると、インストールの準備状態になる。

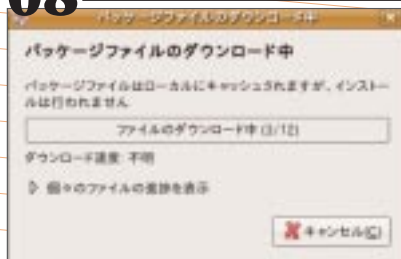
05 確認ダイアログ表示

確認のウインドウが出るので、「マーク」をクリック。

06 「適用」をクリック

「Azureus」のボックスにチェックが付いたのを確認したら、「適用」ボタンをクリック。

07 インストール確認

インストールの確認ダイアログ。問題がなければ「適用」をクリック。

08 インストール開始

インストールが開始される。ここでは必要な他のソフトウエアも自動で追加インストールしてくれる。

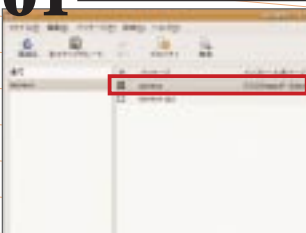
09 メニューに追加される

インストールが完了すると、メニューに「Azureus」が追加される。

インストール完了

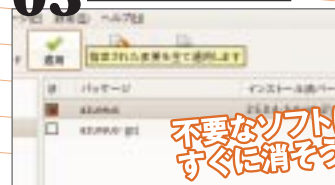
Synapticでアンインストール

「追加と削除」と同じように、Synapticでもアンインストールを行うことができる。ソフトを探し出して、チェックボックスの内容を変更するだけというお手軽作業なので、もう使わないというソフトがあるときは試してみよう。

01 ソフトを探す

Synapticでアンインストールしたいソフトウエアを見つける。

02 アンインストール指定

そのソフトウエアを右クリックして「削除指定」を選択する。

03 アンインストール確認

「適用」をクリックすると実際にアンインストールが開始される。

不要なソフトはすぐに消そう!!

端末

apt-get で ソフトを管理しよう

Level.02-B

せっかくLinuxを使っているのだから、コマンドラインで管理したい! もっと手軽に管理したい! といった場合や、インストールしたいソフトウエアの名前がはっきりしている場合には「apt-get」を使うのがおすすめだ。実は、ここまで紹介してきた「追加と削除」や「Synaptic」ツールは、基本的にapt-getというコマンドを呼びだしているだけ。なのでapt-getさえマスターしてしまえば、Ubuntuのソフトウエアの管理方法をほぼマスターすることができるぞ。

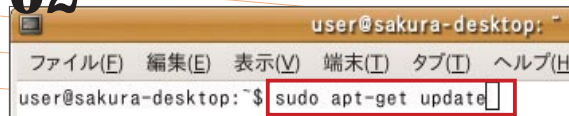
apt-get でソフトを管理しよう

apt-get はコマンドなので端末を起動してそこに打ちこむことで動作する。実際に「comix」というソフトのインストールを例に操作してみよう。注意点としてapt-getでインストールした場合、メニューのどこに追加されたのかが表示されないので、インストールが終わったらきちんと確認しておこう。

01 :メニューから「端末」を起動

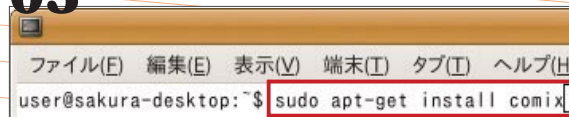
まずはメニューから「端末」を選択して起動しよう。

02 コマンドを入力

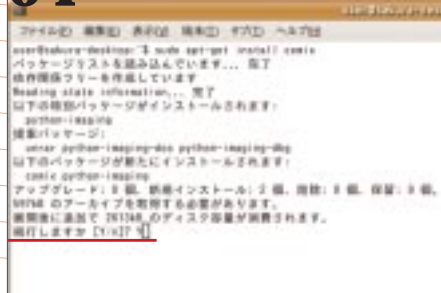
```
user@sakura-desktop:~$ sudo apt-get update
```

sudo apt-get update

「sudo apt-get update」を入力して、インストールリストを更新。

03 ソフト名を指定

```
user@sakura-desktop:~$ sudo apt-get install comix
```

sudo apt-get install

「sudo apt-get installソフトウエア名」を入力。今回はcomixを指定。

04 インストールの確認

インストールの詳細が表示された後で、インストールするかどうかを聞かれるので、キーボードの「Y」キーを押して許可する。

05 インストール完了

左の画面になったらインストールは完了。メニューには、「グラフィックス」→「comix」で登録されている。

キー入力だけでソフトをゲット!!

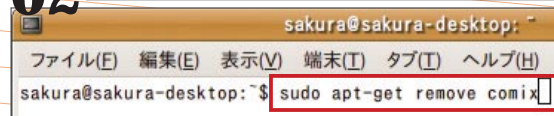
apt-getでアンインストール

apt-getもほかのインストール方法と同様にアンインストールをサポートしている。ここでは、さきほどインストールしたcomixのアンインストールを行ってみよう。ソフトウエアの名前さえはっきりわかっていれば、「端末を起動」→「コマンド入力」のわずか2ステップでアンインストールが終了するため非常に簡単だ。Ubuntuを使う上で覚えておいて損はないぞ。

01 メニューから「端末」を起動

インストール時と同様にメニューから「端末」を選択して起動しよう。

02 アンインストールコマンドを入力

```
sakura@sakura-desktop:~$ sudo apt-get remove comix
```

sudo apt-get remove comix

「sudo apt-get removeソフトウエア名」と入力するとアンインストールされる。上の「comix」と青字になっている部分をソフトの名称に合わせて変えよう。

覚えておきたいapt-getの頻出コマンド

apt-getでよく使うコマンドの一覧を用意したので活用しよう。他にもコマンドは色々ある（端末上で「man apt-get」などで確認できる）が、とりあえずはこのコマンドで十分だ。

アドオン名	効果
sudo apt-get update	パッケージリストを取得・更新する
sudo apt-get upgrade "ソフト名"	インストール済みのパッケージをアップグレードする
sudo apt-get install "ソフト名"	新規にパッケージをインストールする
sudo apt-get remove "ソフト名"	インストールされたパッケージを削除する

インストールの最上級 ソースコードからのインストール

make install

せっかくLinuxを使っているのだから、コンパイルしてみたい、コマンドラインでスマートにインストールしてみたい、という上級志向の人は、ソースコードからのインストールを試してみるのも良いだろう。これはコマンド入力によって、プログラムのソースコードをダウンロードした上で、コンパイルしてインストールも行うという難しい作業となる。Ubuntuを完璧にマスターしたいという人には、ぜひチャレンジしてほしいインストール方法だ。

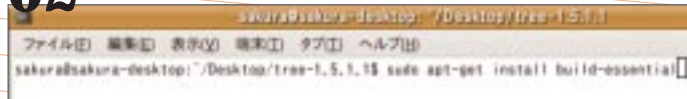
Step01 GCCのインストール

他のLinuxを使ったことがある人は驚くかもしれないがUbuntuには標準では「GCC」がインストールされていない。まずはGCCなどコンパイルに必要なもの一式をインストールしよう。ただし、Synapticが動作しているときは端末を使ってのインストールはできないので、終了させてから以下の手順に進もう。

01 メニューから起動

「アプリケーション」→「アクセサリ」→「端末」を起動させる。

02 インストール用コマンドを入力

```
sakura@sakura-desktop:~/Desktop/tree-1.5.1.1$ sudo apt-get install build-essential
```

sudo apt-get install build-essential

端末を起動し「sudo apt-get install build-essential」と入力。

このページの用語

GCC
GNU Compiler Collection。GNUが作っているフリーのコンパイラー式。

コンパイル
ソースコードから実際に動作するプログラムを作ること。

ソースコード
C言語などで書かれているプログラムの動作を記述してあるもの。

Step02 Transcodeのインストール

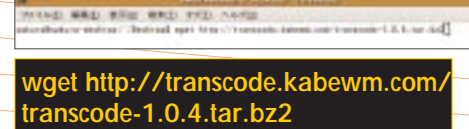
ここでは簡単にディレクトリ構造を確認できる「Tree」コマンドをコンパイルしてみる。インストールには基本的に三段階になっているものが多い。まず、「configure」コマンドでそのプログラムをコンパイルすることが可能か調べる。もしこれが失敗する場合は何らかのライブラリの追加などが必要だ。次に、configureに成功すると「Makefile」というコンパイル専用ファイルが作られる。この状態で「make」コマンドを実行するとコンパイルが開始される。最後に、コンパイルして完成したプログラムを実際にインストールするために「make install」コマンドを実行しよう。なお、あらかじめ下記の6つのパッケージをapt-getやsynapticでインストールしておくこと。

zlib1g-dev	libavcodec-dev
libjpeg62-dev	libmpeg2-4-dev
liblame-dev	libdvdread-dev

01 メニューから起動

「アプリケーション」→「アクセサリ」→「端末」を起動させる。

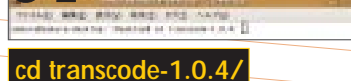
02 Transcodeを入手

wget http://transcode.kabewm.com/transcode-1.0.4.tar.bz2

transcodeの最新版をダウンロードしよう「wget http://transcode.kabewm.com/transcode-1.0.4.tar.bz2」を実行。

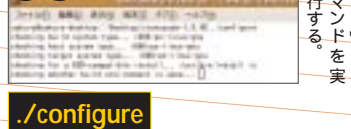
03 アーカイブを展開

次にアーカイブを展開する。「tar xvf transcode-1.0.4.tar.bz2」を入力。

tar xvf transcode-1.0.4.tar.bz2

04 ディレクトリを移動

まず、「cd transcode-1.0.4/」で移動。

cd transcode-1.0.4/

05 configureを実行

configureコマンドを実行する。

./configure

06 makeコマンドを実行

make

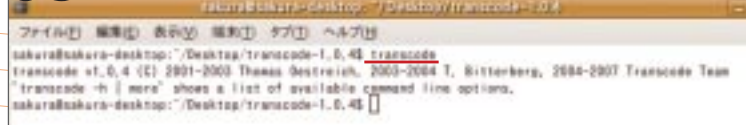
成功したらmakeコマンドを実行だ。これでコンパイル作業が始まる。

07 インストール

makeも成功したら「sudo make install」を実行して、実際にインストールしよう。

sudo make install

08 起動して確認

```
sakura@sakura-desktop:~/Desktop/transcode-1.0.4$ transcode
transcode v1.0.4 (C) 2001-2003 Thomas Oestreich, 2003-2004 T. Bitterberg, 2004-2007 Transcode Team
'transcode -h | more' shows a list of available command line options.
sakura@sakura-desktop:~/Desktop/transcode-1.0.4$
```

試しに実行してみると確かにインストールされていることがわかる。

リポジトリの追加

ここではUbuntuのソフトウエアをインストールする際についてまわる「リポジトリ」について解説する。リポジトリとは、ソフトウエアのデータを保管しておくダウンロード元のこと。Ubuntuにはいくつかのリポジトリが標準で設定されているが、これをさらに追加することで、さらにソフトウエアをインストールすることができるようになる。なお、ここで言う「フリー」というのはオープンソースであるかどうかという意味だ。

代表的なリポジトリ

標準で設定されているもの以外にも有志が作ったリポジトリというものがあり、これを追加することでインストール可能なソフトウエアを増やすことができる。

リポジトリ名	説明
main	Ubuntuが公式にサポートするフリーのソフトウエア
restricted	Ubuntuが公式にサポートするがフリーではないソフトウエア
universe	Ubuntuがサポートしていないフリーのソフトウエア
multiverse	Ubuntuがサポートしていないフリーではないソフトウエア

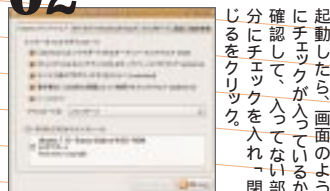
リポジトリを有効にする

Ubuntuは標準の状態では商用関係のリポジトリが外されており、それらからのインストールができなくなっている。ここで紹介する方法によって設定を変更しておけば、リポジトリを増やすことができるので、ぜひやっておきたい作業だ。

01 メニューから起動

「システム」→「システム管理」→「ソフトウエア・ソース」を起動。

02 ボックスをチェック

起動したら、画面のようにチェックが入っているか確認して、入ってない部分にチェックを入れ「閉じる」をクリック。

03 「再読み込み」をクリック

更新ダイアログが表示されたら「再読込」をクリック。これで終了だ。

medibuntuを追加する

WMVやDVDの再生などは、権利の関係でUbuntuでは使えなくなっているが、「medibuntu」というリポジトリを追加することで再生ができる。まずは端末で「sudo wget - "鍵のURL"」を入力し「鍵」をダウンロードしよう。リポジトリの追加には「URL」の記入が必要だ。

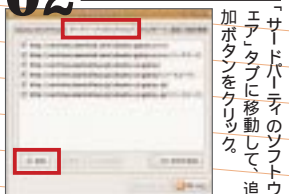
リポジトリ名	medibuntu
鍵のURL	http://packages.medibuntu.org/medibuntu-key.gpg
URL	deb http://packages.medibuntu.org/ gutsy free non-free

```
sudo wget - http://packages.medibuntu.org/medibuntu-key.gpg
```

01 メニューから起動

「システム」→「システム管理」→「ソフトウエア・ソース」を起動。

02 リポジトリを追加

「サードパーティのソフトウエア」タブに移動して、追加ボタンをクリック。

03 リポジトリのATPラインを入力

「ATP line」に「deb http://packages.medibuntu.org/ gutsy free non-free」と入力。

```
deb http://packages.medibuntu.org/ gutsy free non-free
```

04 鍵ファイルをインポート

「認証」タブに移動し、画面下の「鍵ファイルのインポート」をクリックしよう。

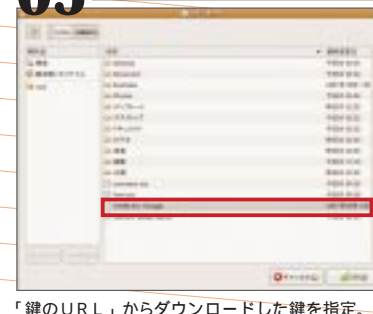
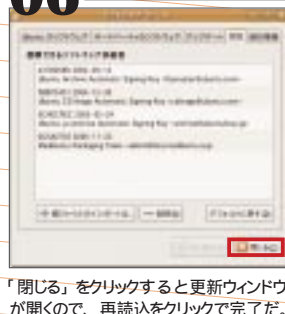
05 鍵を指定

「鍵のURL」からダウンロードした鍵を指定。

06 再読み込みして完了

「閉じる」をクリックすると更新ウィンドウが開くので、再読込をクリックで完了だ。

07 追加完了

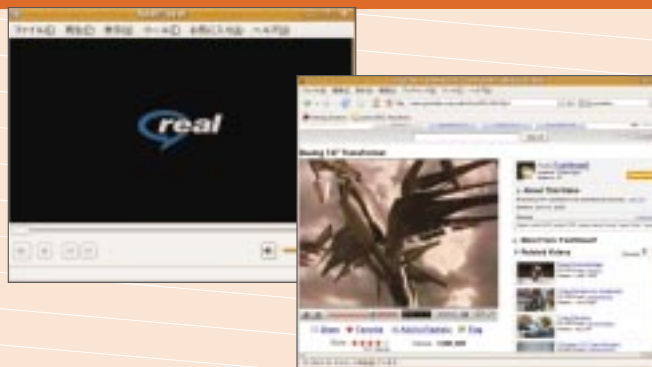
リポジトリの追加で落とせるソフトが増えた!!

追加しすぎには注意

リポジトリというものは、非常に複雑な構造で管理されている。なのでリポジトリを大量に追加してしまうとUbuntuにインストールされるソフトウエアがおかしくなってしまう場合がある。本誌で紹介しているものは安全なので安心して追加してほしい。

Ubuntu基本コーデックインストール

標準状態のUbuntuではPDFを開けなかったりFlashの再生ができなかったりと不便だ。さらには動画・音楽の再生には全くというほど対応していない。ここではUbuntuの基本的なツールをインストールすることで

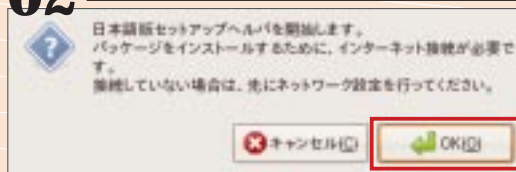
・「Stage6」などの動画共有サイトでの動画、Flash、Real Playerの再生。
・Adobe Readerのインストール。
・MP3などの再生。

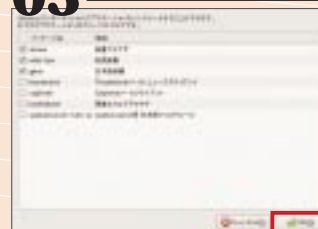
を可能にするための作業を行っていこう。

日本語セットアップヘルパの実行

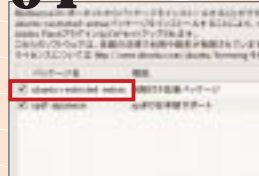
Ubuntu日本語版をインストールすると、便利なことに「日本語セットアップ・ヘルパ」というものがインストールされている。これを実行すると、Flash、Adobe Reader、Javaのインストールが、日本語で自動的に行われるのだ。なお、日本語セットアップ・ヘルパの実行にはインストールCDが必要なので、あらかじめCDドライブにインストールCDを入れておこう。メニューの中に表示されるようになるので、そこから作業開始となる。

01 メニューから起動

「システム」→「システム管理」→「日本語セットアップ・ヘルパ」を起動。

02 確認ウインドウが表示

実行の確認ウィンドウが出るので「OK」をクリック。

03 必要なものを選択

インストールするものにチェックを入れて「OK」をクリックし、次のリストへ。

04 必ずチェック

「ubuntu-restricted-extras」には必ずチェックを入れること。

05 さらにチェックを入れる

以降のリストも同様に、必要なものにチェックを入れておこう。「OK」をクリックでインストール開始だ。

06 インストール開始

インストールの最中には同意を求めてくる場面もあるのでその都度確認が必要。javaの場合はライセンスの同意にチェックを入れておこう。

基本コーデックのインストール

Ubuntu のプレイヤーでは、権利の関係によりMP3を標準再生できない。まずは、右のリストにあるソフトウエアをインストールしよう。これらをインストールする際は「追加と削除」にて、ウインドウの右上のリストから「全ての利用可能なアプリケーション」を選択する必要があるので注意しよう。

基本的なコーデックの一覧
GStreamer extra plugins
GStreamer ffmpeg video pluugin
GStreamer fluendo MPEG2 demuxing plugin
GStreamer plugins for mms, wavpack, quicktime, musepack
GStreamer Dirac video plugin
GStreamer plugins for aac, xvid, mpeg2, faad

01 追加と削除を選択

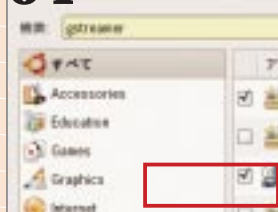
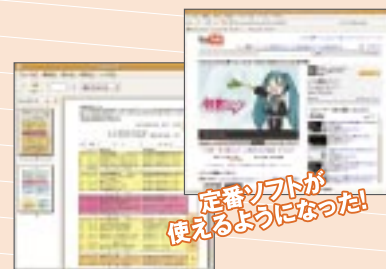
「アプリケーション」→「追加と削除」を起動。

02 検索してインストール

「全ての利用～」を選択し、「Gstreamer」で検索をかけ、該当するソフトをインストールしよう。

03 確認ダイアログ表示

チェックすると左のウインドウが出るが「確認」を押して続行する。

04 「変更の適用」からインストール

「変更の適用」をクリックしてインストールを開始。自動でインストールが進む。

Ubuntuで iTunesが動く!?

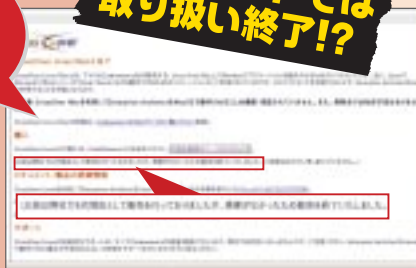
「LinuxでWindowsのソフトが使える」と噂の有料ソフトCrossOverを試してみた!!

CrossOver
作者名：CodeWeaver　値段:39.95$
インストール方法：Package Manager

OSはLinuxでいいけれど、Windowsのソフトも使いたいという人にオススメのソフトがあるという。「CrossOver」という名のソフトで、Linuxにしては珍しく有料なのだ。MS Officeをはじめ、iTunesなども動くとあれば、ぜひとも試してみたい！　ということで編集部でこのツールの実力を検証してみるぞ！

まずは入手!!

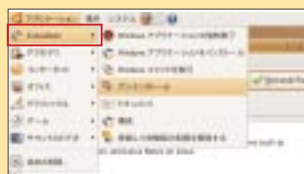
とりあえず、日本のサイトへアクセス。すると、なんと「需要がなかったため販売終了」とのこと。なんとも不吉な予感……。

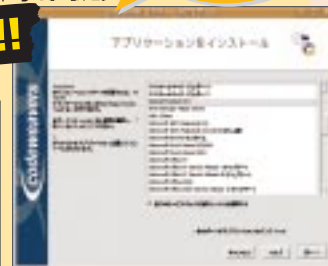
日本語サイトでは取り扱い終了!?

英語サイトから入手

結局、米国本社のサイトで入手可能と判明。ひとまず体験版があったのでそちらを試すことに。体験版の入手にはユーザー名とアドレスの登録が必要だ。

英語が苦手ならここであきらめよう

起動!!

本体をインストールして、さっそく起動。しくみとしては、利用可能なWindows用ソフト一覧が表示されるので、そこから指定するというもの。裏を返せば、ここに無いモノはインストール不可のようだ。

メニューから起動!!

メニューから起動。インストール可能ソフト一覧に見慣れた名前が並ぶ。ただ、事前情報では、iTunesのインストールできるらしかったが、どうやらそれは旧バージョンの話らしい。残念!

インストールできる主要ソフト
Adobe Photoshop 7
Adobe Acrobat Reader 5.0
DreamWeaver MX
Internet Explorer 6.0
Microsoft Excel 2003
Windows Media Player 6.4

あれ、iTunesないよ

あるものを検証

A:WindowsMediaPlayerでaviファイルを再生

起動してAVIファイルを再生

音しか出ない

で、実際にWindowsアプリケーションをインストール。しかし、確かに本体は最新版を落としたはずなのだが、インストールできるソフトはどれも古いものが多い。「MediaPlayer」はアイコンを見た瞬間「Classic」かと思うほど古いバージョン……。まあ、それはさておき、実際にインストールしたアプリを使ってみると……。

コーデックが足りないのか音しかでない。Ubuntu上では完璧に再生されるため、ファイルが壊れているわけでもなさそう。

B:QuickTimePlayer

AVI非対応

一昔前はWebにおける動画フォーマットのスタンダードとなるかと言われたQuickTimeだがAVI非対応。

C:Macromedia Flash Player

インストールすら失敗!?

何故かインストール失敗。しかもフォントが見づらく理由も不明!!

結局どのメディアファイルもUbuntuで普通に見た方が遥かに速くて楽だったのだった……。

Ubuntuでフツーに再生

検証結果

一言で、「需要がなかった」ハズ。登録されているソフト数は一見多そうなのだが、インストール可能なソフトのバージョンが古過ぎで、その上メニューの日本語表示も見づらい。こうなると、最近のUbuntuソフトを使った方が遥かに扱いやすいのは明らかだ。確かに日本代理店のホームページにも書いてあるとおり、「需要がなかった」という一言に尽きるだろう。